GRASYS

ID DB

操作マニュアル

GRASYS ID DB

操作説明書

1. 本書の著作権は株式会社プラザクリエイトに属します。
2. 本書の内容は、改良の為、将来予告なく変更する場合がございます。
3. 本書の全部または一部を無断で複製することはできません。
4. 本書内に記載している製品名の固有名詞は、弊社または各社の商標または登録商標です。
5. 本書内において、誤り、記載漏れなどお気づきの点がございましたらご連絡ください。
6. 本プログラムの一部を利用または他目的のために利用した結果、生じたいかなる問題について、弊社では５項にかかわらず、何ら責任を問うものではありません。予めご了承ください。

INDEX

1 はじめに　4
1.1 システム要件　4
1.2 プログラム構造　4
1.3 データベースの使用パターン　5
1.4 著作権　5
2 プロジェクトの作成とデータの取り込み　6
2.1 ID DBの起動　6
画面の構成内容　6
2.2 新規プロジェクトの作成　7
2.3 データの追加、修正　9
2.4 データの編集　11
2.5 外部データをインポートする　12
EXCELデータのインポート　12
CSVデータのインポート　14
2.5 デザインを変更する　19
2.6 フィールドを追加する 19
DBと連動しないフィールドを追加する　19
DBと連動するフィールドを追加する　19
3 主な機能　22
3.1 新規プロジェクトの作成　22
3.2 データベースの作成/修正　22
3.2.1 データベースの自動作成　22
3.2.2 データベースを手動作成する　23
3.3 ODBC接続　27
データソースの追加例：エクセルファイルをODBC接続する　32
接続手順 32
3.5 データベースを開く　34
3.6 データを追加する　34
3.7 画像の編集、変更　34
画像編集画面の機能　35
3.8 データを選択する　36
3.9 データを印刷する　36
印刷時のエラー　38
3.11 データ検索　39
3.11 データの検索 39
テキスト検索　39
4 リボンバーの機能　40

4.1 [ホーム]タブ　40
＜プロジェクト＞40
＜印　刷＞　40
＜マーク＞　41
＜表　示＞　41
＜検　索＞　42
＜カード＞　43
＜デザイン＞　43
4.2 [ファイル]タブ 44
4.2.1 新規作成　44
4.2.2 保存　44
4.2.3 開く　44
4.2.4 閉じる　44
4.2.5 印刷　45
4.2.6データベース　45
4.2.8 履歴データの印刷　46
4.2.9 終了　47
4.3 [データベース]タブ　47
＜接続＞ 47
＜設定＞ 48
<DBのセキュリティ>　48
＜カード＞　48
5.サンプルデータ　48

1 はじめに

GRASYS ID Designは、カードのデザインに特化したソフトです。データを1つずつ 印刷することができますがデータが大量である場合に全てを印刷するのに時間がかかり過ぎてしまいます。GRASYS ID DBはこのような場合に有効です。
ID DBを使用することで複数のデータを一度に印刷できます。また、ODBCドライバーを使用して他のデータベースのデータを取り込むなどの機能があります。

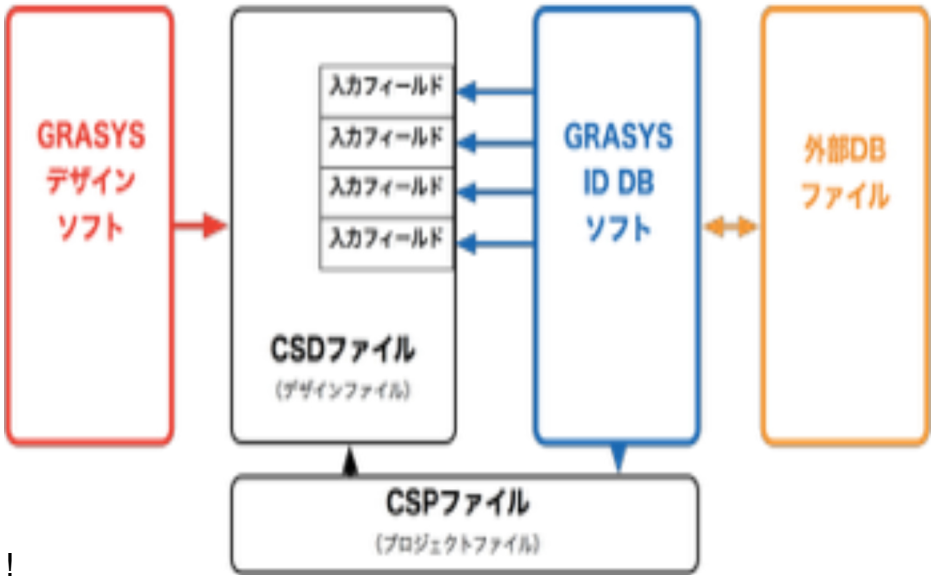
1.1 システム要件

GRASYS ID DBは、GRASYS ID Printerとセットで動作させることができます。
OSとハードウェア要件

-Windows XP - 1GHz以上のCPU- RAM 512MB以上
-Windows Vista/ 7/ 8/ 10 （32bit/ 64bit）- 1GHz以上のCPU- RAM 1GB以上

1.2 プログラム構造

GRASYS ID Designで作成したカードデザインはCSDファイル(拡張子は.csd)として保存されます。
このCSDファイルはテキスト、画像、 バーコードなどの可変情報項目に“入力フィールド”を設定することができます。GRASYS ID DBはこの入力フィールドにデータを差込み印刷します。ID Designでは一つずつデータを入力／変更する必要がありますが、入力フィールドとGRASYS ID DBを使用すると 可変情報のデータを一つ一つ入力／変更する必要はありません。 また、GRASYS ID DB上でデザイン変更機能を使用してデザインを直接編集できます。
※編集後、プロジェクトを保存するとデザインはプロジェクトにのみ保存されます。プロジェクト作成時に使用した原版のCSDファイルは変更されません。



!
GRASYS ID DB の構造

1.3 データベースの使用パターン

GRASYS ID DBソフトウェアではデータベースを下記の方法で使用することが出来ます。

インポート：データベースのデータをID DB内に取り込み、専用データベースを作成して使用します。
元のデータベースとは連動せず、ID DBで編集をしても元データは変更されません。
対応ファイル：EXCELファイル、CSVファイル

ODBC接続：データベースのテーブルに接続したまま連動してデータを利用します。
元データをそのまま利用します、ID DBで編集すると元データも変更されます
データベースを利用するにはID DBが用いる項目（印刷記録、時刻、画像がある場合は編集記録情報）をデータベース側にも設けておく必要があります。
対応DB：EXCELファイル、DBaseファイル、その他DB

1.4 著作権

本ソフトウェアを商用で配布することはできません。 これらが原因で生じたいかなる問題について弊社では一切責任を受け入れることができません。予めご了承ください。

2 プロジェクトの作成とデータの取り込み

この章では、プロジェクトの作成方法について説明します。
データベースについて

2.1 ID DBの起動

GRASYS ID DBは、[スタート]メニューで実行することができます。 [スタート] > プログラム > Grasys > GRASYS ID DB
またはデスクトップのショートカットアイコンを 使用して実行することができます。



プログラムを実行すると、下図のウインドウが表示されます。



GRASYS ID DB 画面構成

画面の構成内容

1 リボンバー（パネル） …メニュータブとその機能が表示されます。詳細は4を参照してください。
2 フィルター …データの検索などを行ないます。
3 データ ...CSD項目と接続されたDB項目のデータを示します。
4 プレビュー …選択されたデータのプレビュー画像を表示します。
オモテ面だけのデザインデータはオモテ面だけ表示され、両面デザインの場合は

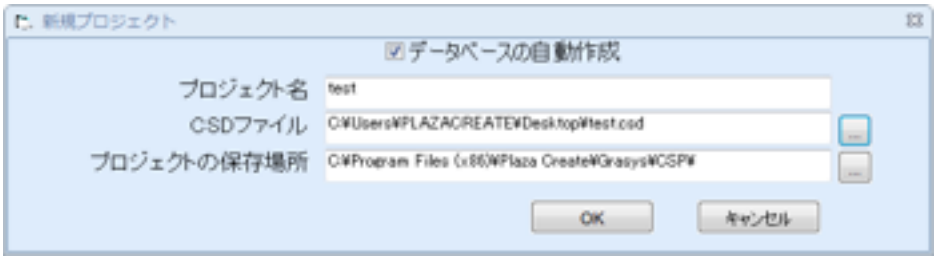
ウラ面タブを選択すると、ウラ面のプレビュー画像を表示します。

5 CSD/ DBフィールド ...CSDフィールドのタブを選択すると CSDファイルのフィールド情報が表示され、DBフィールドのタブを選択すると、プリント済マークや画像がある場合の調整値などデータベース内の情報を全て表示します。

2.2 新規プロジェクトの作成

デザインの入力フィールドとデータを接続、あるいはデータを入力するために新規プロジェクトを作成します。 最初にGRASYS ID Designを使用して入力する項目を入力フィールドとして設定したCSDファイルを用意しておきます。詳細についてはGRASYS ID Designのマニュアルを参照してください。

[ファイル]タブ > 新規作成、または[ホーム]タブ > “新規作成”ボタンをクリックすると下図の”新規プロジェクト”のウィンドウが表示されます。



表示された新規プロジェクト画面上部の「データベースの自動作成」にチェックが入っているか確認して下さい、自動作成にチェックを入れておくとデザインに設定済の入力フィールドに応じたデータベースが自動的に作成されます。

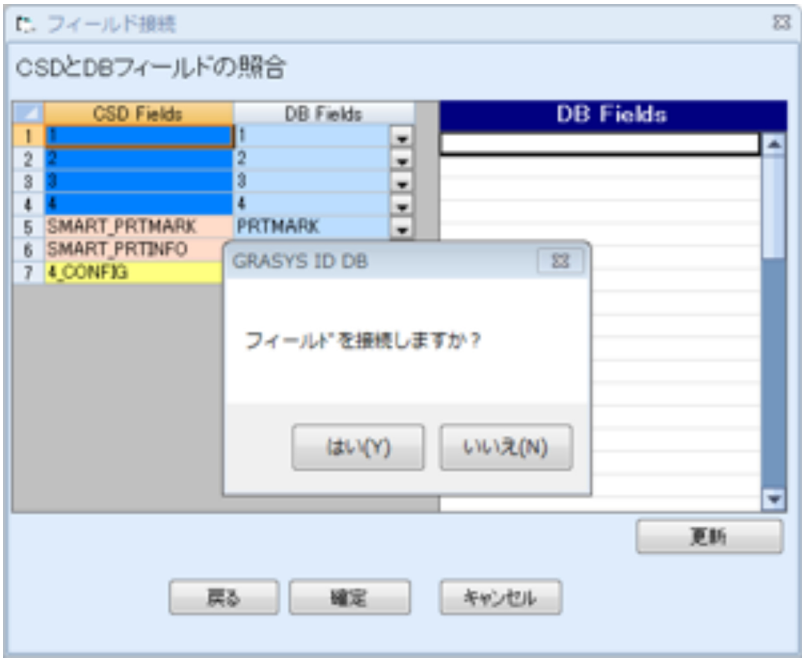
次に、CSDファイルを選択します。“...”ボタンをクリックして該当のCSDファイルを選択すると”プロジェクト名"はCSDファイル名になりますが、他のプロジェクト名を入力することも可能です。"プロジェクトの保存場所"はプロジェクトを保存する場所を選択します。

※保存場所はそのままで利用可能です。

※本マニュアルでは、GRASYS ID Designで入力フィールド設定済のデザインを作成済として以下の操作説明を行います。

プロジェクトを作成すると自動データベース作成機能により、次ページの”フィールド接続画面”が表示されますのでデザインファイルCSDの入力フィールドとDB（データベース）に作成される連結項目が正しいか確認し "フィールドを接続しますか?"ウインドウの “はい"をクリックします。

※”いいえ”を選択した場合でも”確定”ボタンをクリックすると接続できます。



フィールド接続画面ではCSDフィールドとデータベース(DB)がどのように接続されているかを示しています。データベースの作成後、“自動データベース作成”によってCSDフィールドに自動的に接続されます。

フィールド接続画面のCSDフィールドの色について

■ブルー部分：デザインCSDファイルの “入力フィールド名"

■ピンク部分：連動するGRASYS ID DBのデータベースの項目名

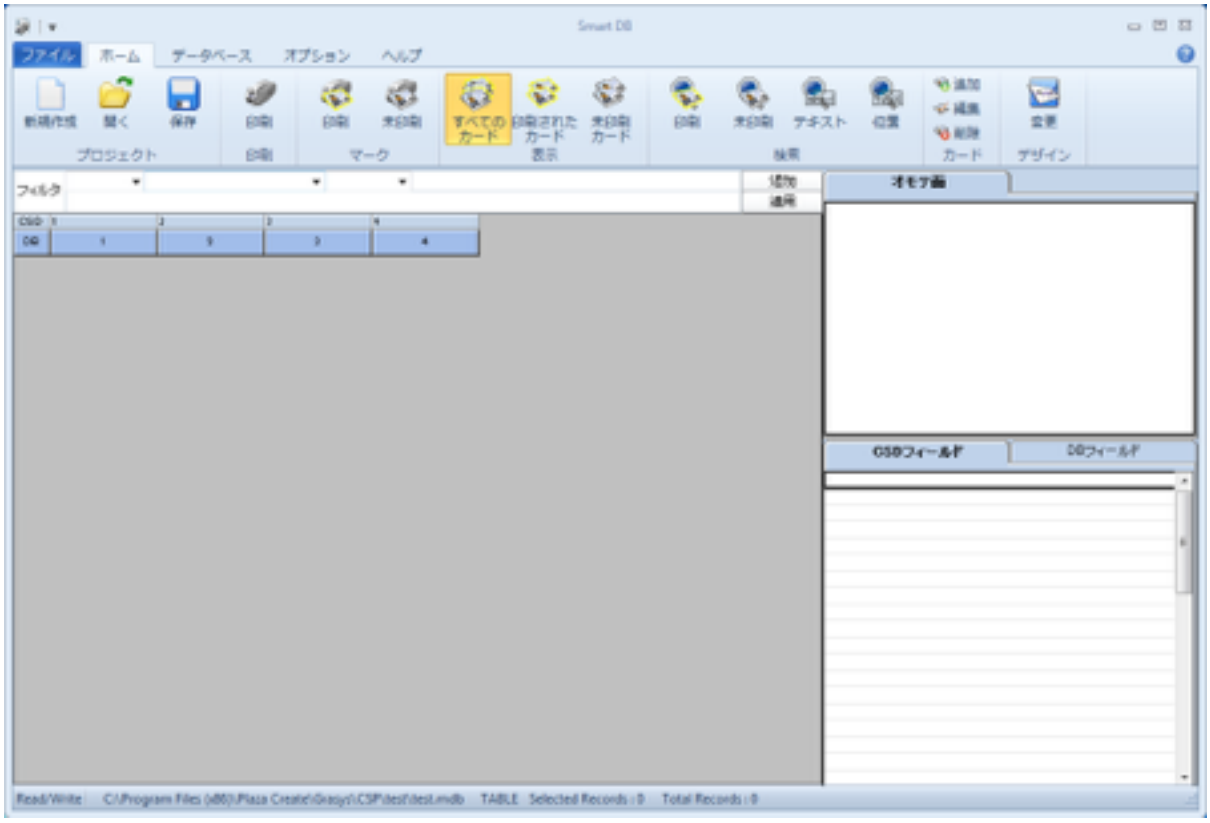
■イエロー部分：画像の調整内容（画像フィールドがある場合のみ表示）ID DBで画像を調整した際に記録します

※プロジェクトを作成すると、プロジェクトフォルダにデザインに用いるCSDファイルがコピーされ、上記で作成したデータベースのmdbファイルとプロジェクトのCSPファイルの３つのファイルが保存されます。

*注意:デザインデータはコピーして保存されますので、元のデザインデータを編集しても反映されません。ID DBのデザイン編集アイコンからコピーされたデザインを編集することが可能です。これはプロジェクト単位でデザインとデータを管理するための仕組みです。

*注意:DB内部ではデータの検索にSQLを使用しています、フィールド名がSQLの予約語と同じにならないよう注意が必要です。日本語をお勧めいたします。

ホーム画面のDBフィールドは接続後、次ページのように表示されます。CSDがデザインの入力フィールド、DBがデータベースの項目です。

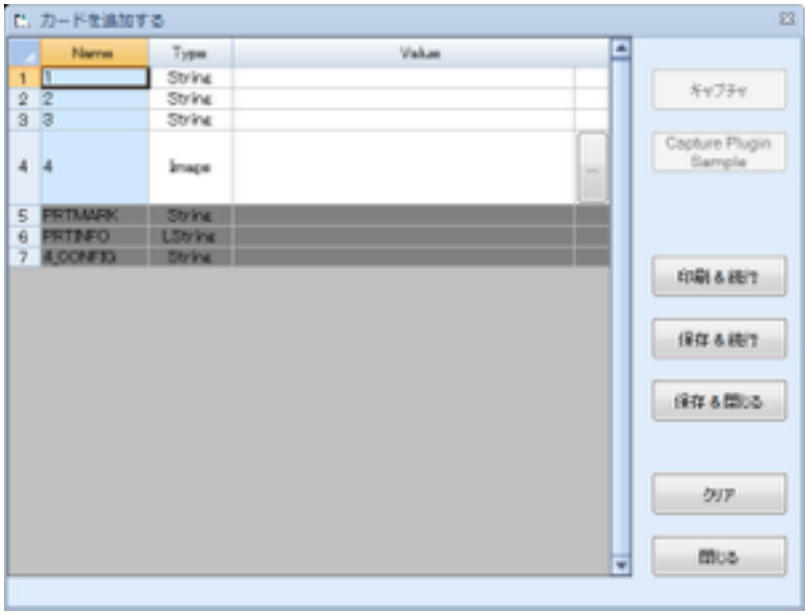


DB接続後のホーム画面

CSDのプレビューが右側に表示され、CSDフィールドとDBのフィールドが表示されます。
ここからデータの入力と変更ができます。

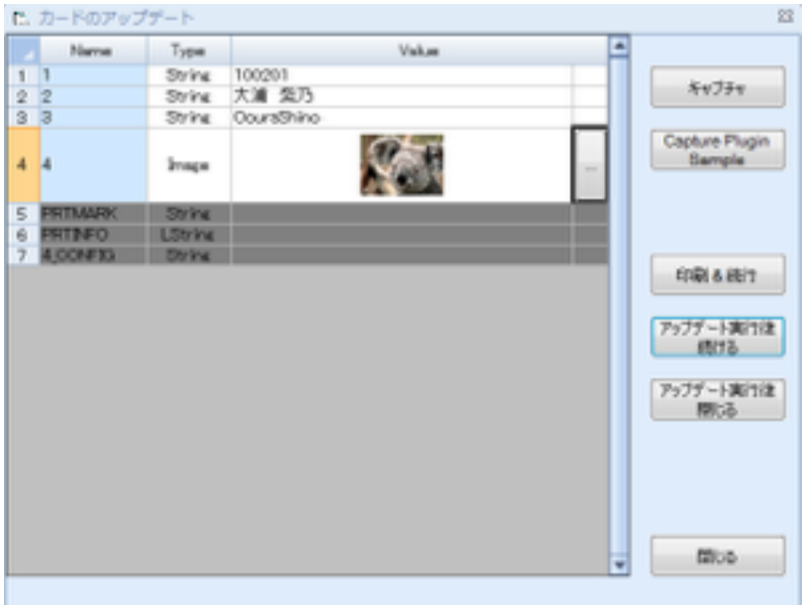
2.3 データの追加、修正

データを追加するには、 [データベース]タブ > "追加"ボタン、または [ホーム]タブ > 追加ボタンをクリックします。



カードを追加画面

各項目の"Value"にデータを入力します。 画像フィールドを使用するときは、"..."ボタンをクリックするとエクスプローラ画面が開きますので、該当の画像を選択して下さい。 画像を変更したい場合は、画像をダブルクリックするか"..."ボタンをクリックします。

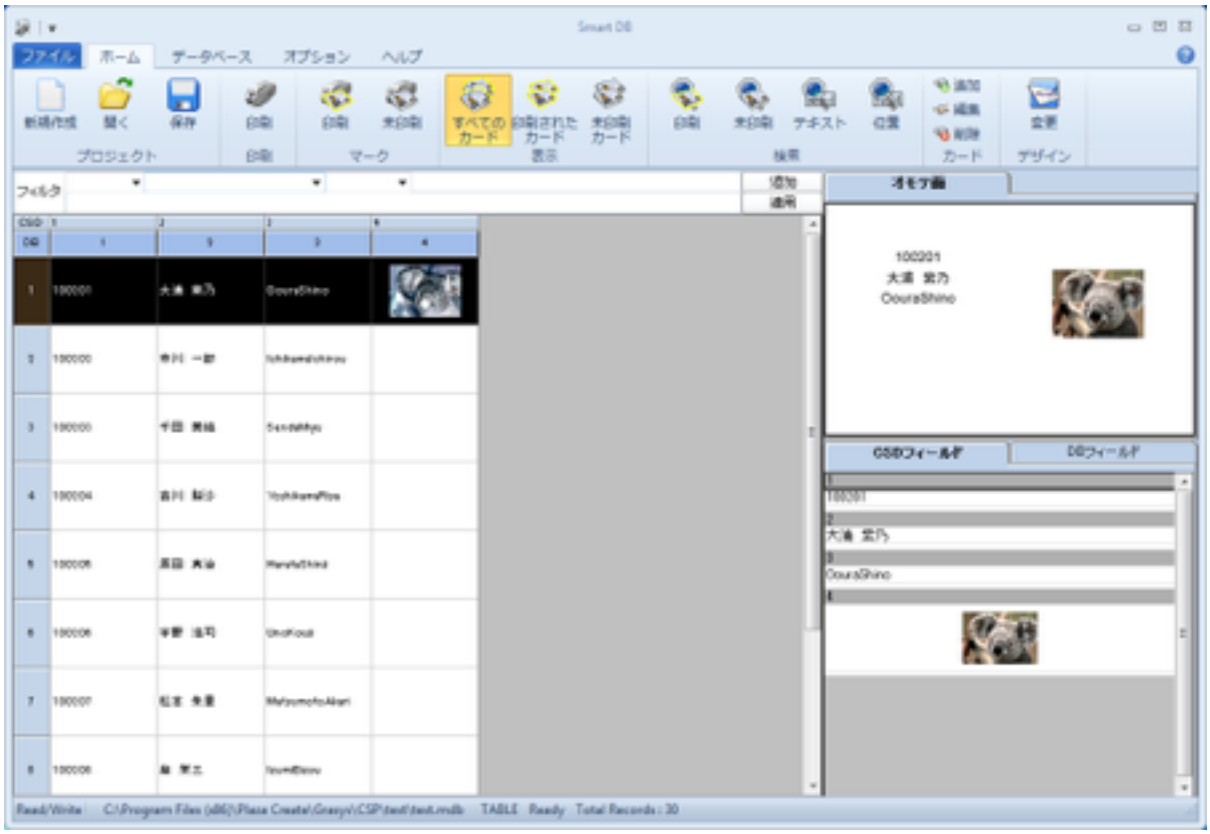


＊USBカメラからの画像取込
USBカメラがPCに接続されている場合、画像項目を選択した場合に右側の"キャプチャ"ボタンが有効になります。 キャプチャボタンをクリックするとキャプチャ用の画面にUSBカメラの映像が表示され、キャプチャボタンをクリックすると撮影データが登録されます。（一部のカメラではカメラ側のシャッターに対応しています）
※カメラ付のノートPCの場合
USBカメラを接続してID DBを起動、キャプチャーを確認します。内蔵カメラだけが認識される場合は、USBカメラを一旦取り外してコントロールパネル > デバイスマネージャーを起動します。イメージングデバイスに表示されているUSBWebCamを選択し、右クリック > 無効を選択します。設定完了後、USBにカメラを再度接続してお試し下さい。

”印刷&続行”：入力の都度、印刷をおこなうことができます。
プリンタを選択し、 "印刷"ボタンをクリックしてください。 その後、印刷が開始されます。印刷後、プレビューが自動的に閉じられ、 印字内容のデータが自動的にデータベースに追加されます。

データ入力後、"保存&閉じる" または"保存&続行" をクリックするとデータが保存されます。
“保存&閉じる"：データを保存し追加画面を閉じます。
“保存&続行”：データを保存し作業を続けます、直前の編集内容が残りますので同じ内容の部分などはそのまま利用し必要な部分のみを上書き入力します。
“クリア"：入力した内容を消去します。
"閉じる"：ウインドウを閉じます。

カードを追加した場合、新しいデータは、図9のような画面上で更新されます。 選択されたデータは、データフィールドを介して更新され プレビューセクションに表示されます。

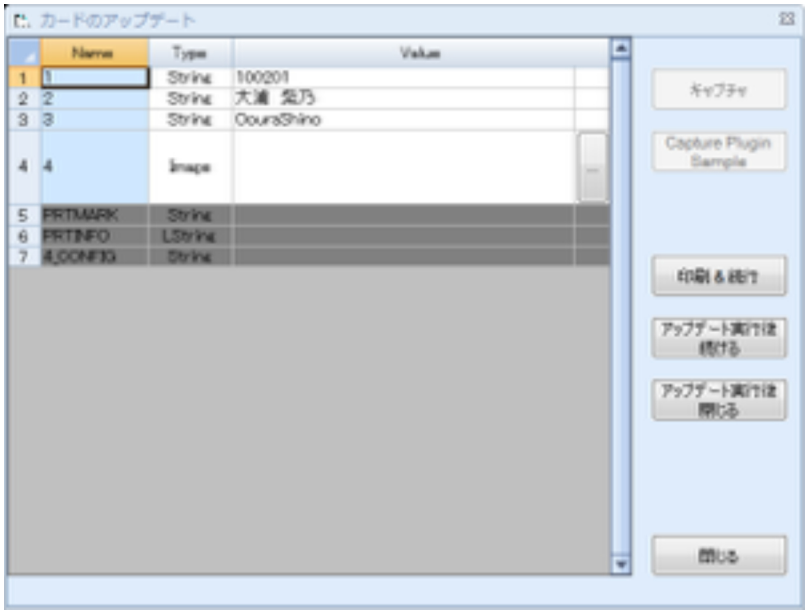


画像データ追加後

2.4 データの編集

データを編集する方法は二つあります。

- 編集したい行を選択し、 "編集"ボタンを選択する
- 編集したい項目をダブルクリックして直接編集する



編集画面 （メニューから編集ボタンを選択した場合）

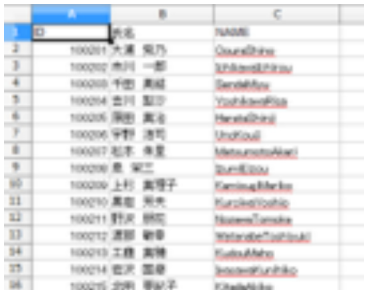
"キャプチャ"をクリックするとUSBカメラが接続されている場合は画像を取り込みます。
"アップデート実行後閉じる"をクリックすると編集したデータをデータベースに適用します。
“印刷&続行”：現在のデータを印刷します
"アップデート実行後続ける"：変更内容をデータベースに適用します、直前の編集内容が画面に残っていますので一部を再利用するか上書きします。
"閉じる"：保存せずにメインプログラムに戻ります。

2.5 外部データをインポートする

新規プロジェクトの作成後、または既存のデータベースに外部のデータを追加します。

※注意：[データベース]タブのMDBに接続またはODBCに接続を使用した場合、データを取り込まずにファイルをリンクして更新しますのでファイルやデータベースのアクセス権によってはデータを更新出来ないなどの場合があります。インポートでの利用をおすすめします。

エクセルデータの例



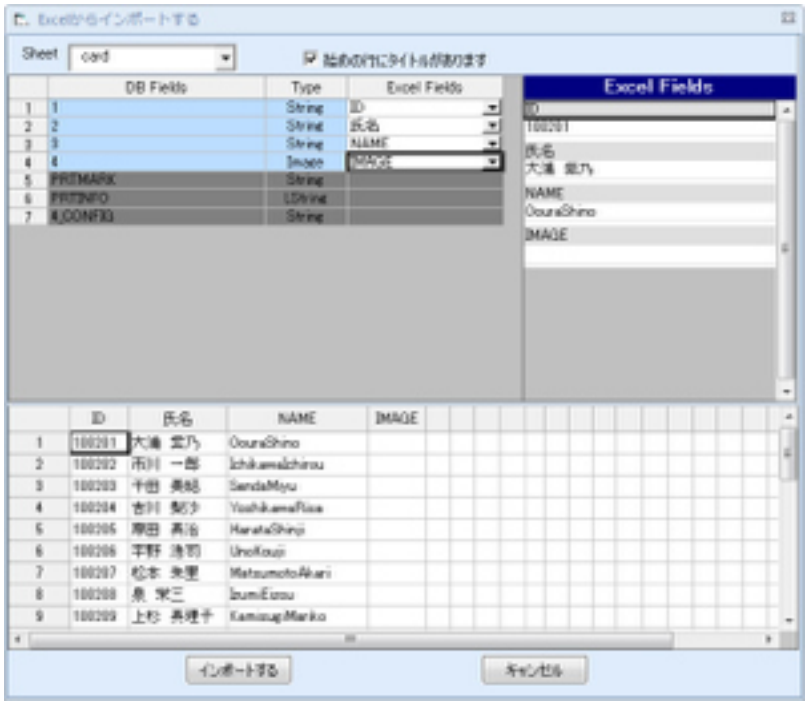
EXCELデータのインポート

ファイルタブ > データベー > インポート > EXCELデータをインポートするを選択します。

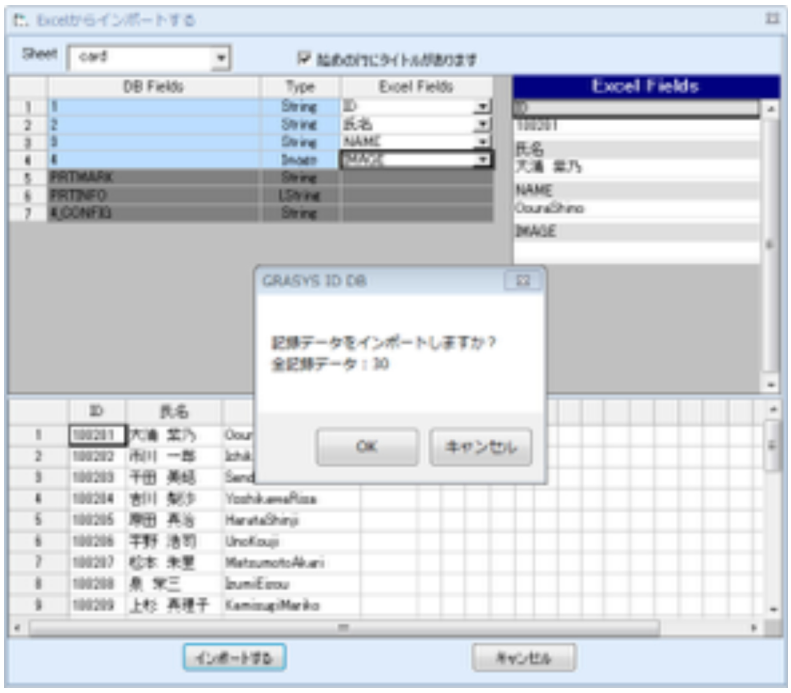


エクスプローラ画面で該当のExcelファイルを選択し、開くボタンをクリックします。

下図のExcelからのインポート画面が表示されます



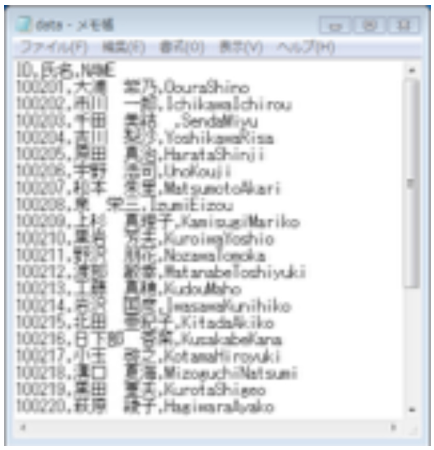
下段の最初の行はフィールド名です。実際にはデータは2行目以降から取込みます。データの１行目に項目名が無い場合は画面上部の「始めの行にタイトルがあります」のチェックを外してください。また、インポートするエクセルのシートが異なる場合はSheetで該当のシートを選択して下さい。
右上のExcel Fieldsには画面下部のリストを選択するとデータの内容が表示されます。
画面上部の左側はDBのフィールド名、右側は"Excelのフィールド"名です。 DBフィールドに適合するExcelのフィールドを選択して"インポートする“ ボタンをクリックするとExcelファイルのデータをDBに追加します。



CSVデータのインポート

準備：csvを保存しておくフォルダには他のファイルは入れずにcsvファイルはひとつだけにして下さい。

CSVデータの例

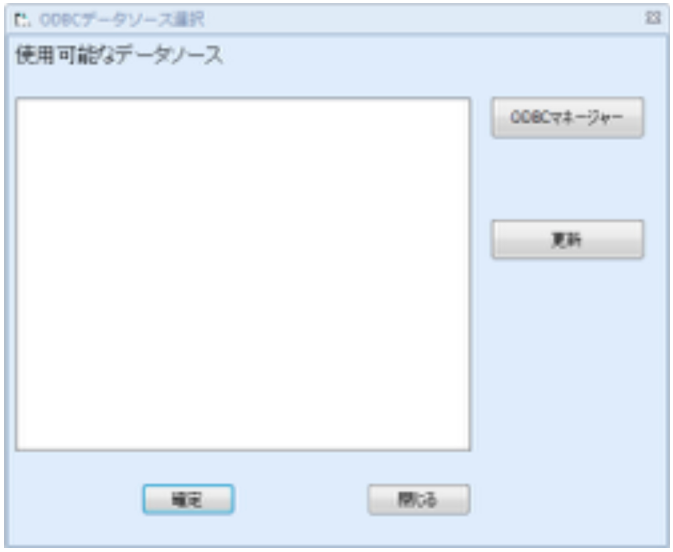


データのインポート

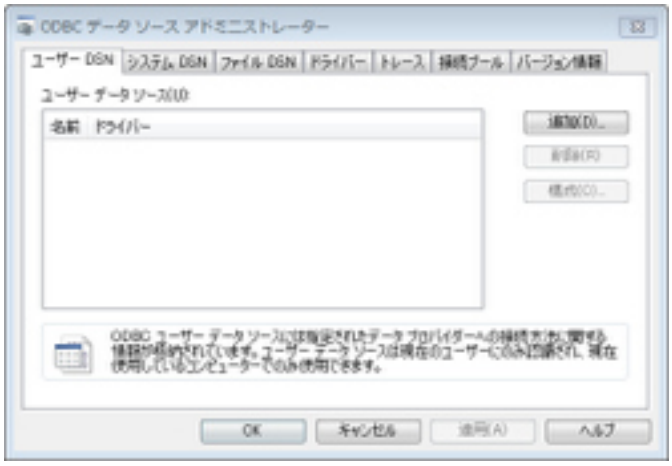


ファイルタブ > データベース > インポート > ODBCデータをインポートするをクリックします

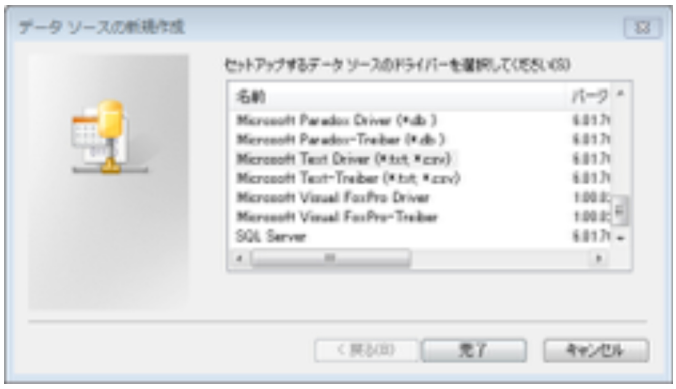
ODBCデータソース選択画面に切り替わります。



ODBCマネージャーボタンをクリックします



ODBCデータソースアドミニストレーター画面に切り替わります

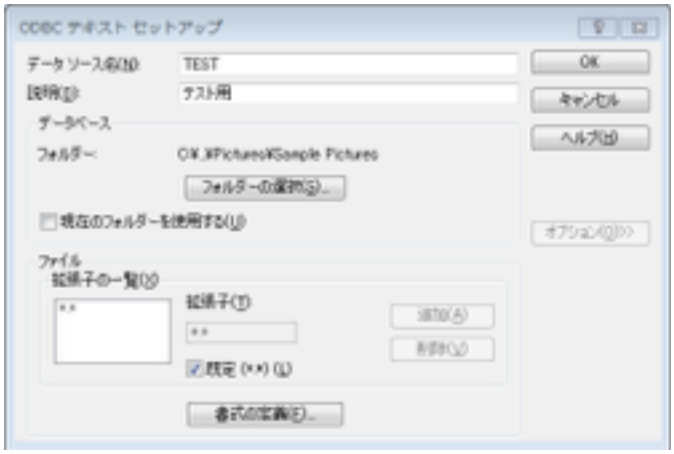


Microsoft Text Driverを選択して完了ボタンをクリックすると下図のODBCテキスト セットアップ画面が表示されます。

データソースに名前を入力し、必要に応じて説明部分も入力してください。
＊名前はデータソース選択時に一覧で表示される名称です、解りやすい名称を使用してください

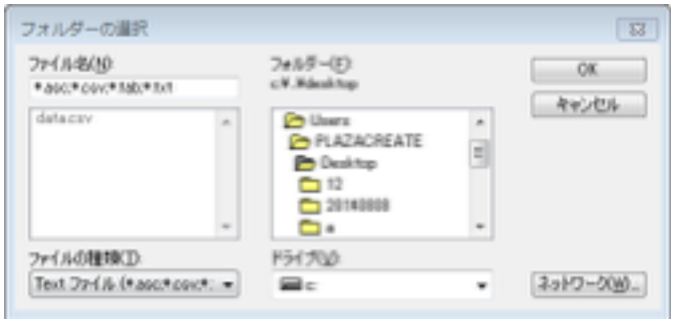


続いてオプションボタンをクリックすると画面が下にひろがります。

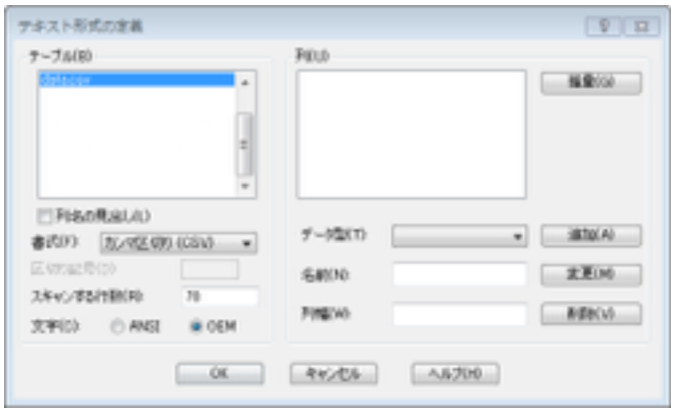


「現在のフォルダーを使用する」のチェックを外して「フォルダーの選択」をクリックし、該当ファイルのあるフォルダを指定してOKをクリックします。

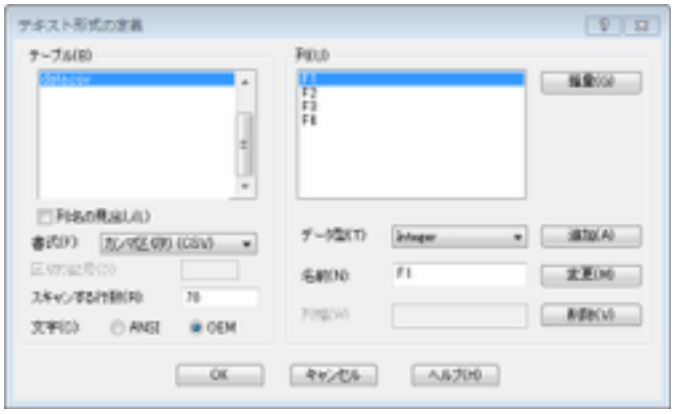
※この時、複数のテキスト・CSVファイルがあるとOKをクリックできません



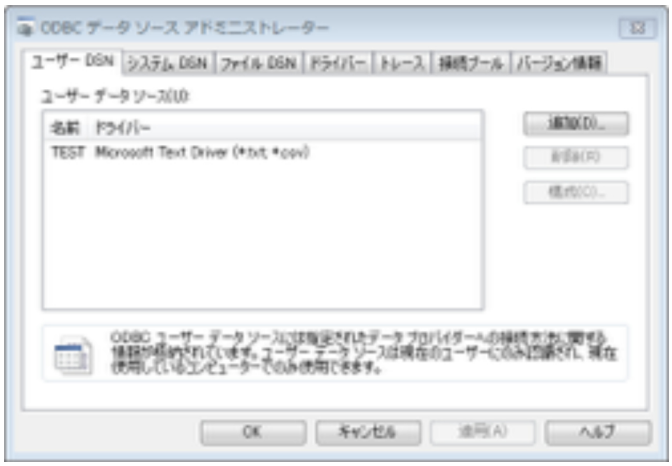
画面が戻りますので、「書式の定義」ボタンをクリックします。
テキスト形式の定義画面が表示されます。



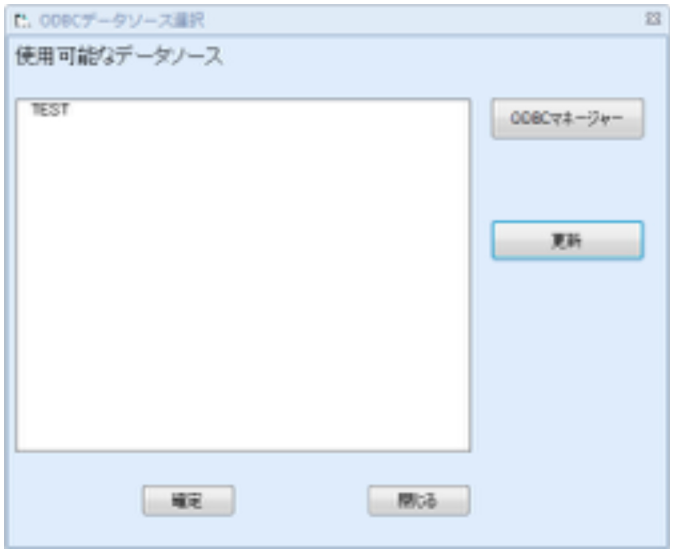
テーブル（B）で該当するcsvファイルを選択し、「推量」ボタンをクリックします。
書式（F）：CSVデータがカンマ区切りかタブ区切りかカスタムかを選択します。
＊通常はカンマ区切りのcsvです。
＊ファイルが表示されない場合はキャンセルをクリックして前の画面のフォルダーの選択をやり直して下さい。



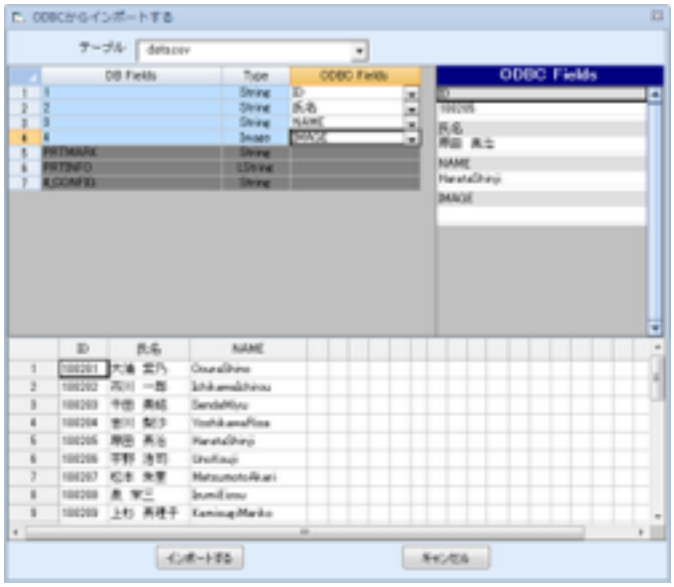
列（U）にF1,F2・・・と表示される場合は「列名の見出し」にチェックを入れ、再度推量ボタンをクリックしてください。
CSVファイルの項目名が表示されたらOKをクリックします。



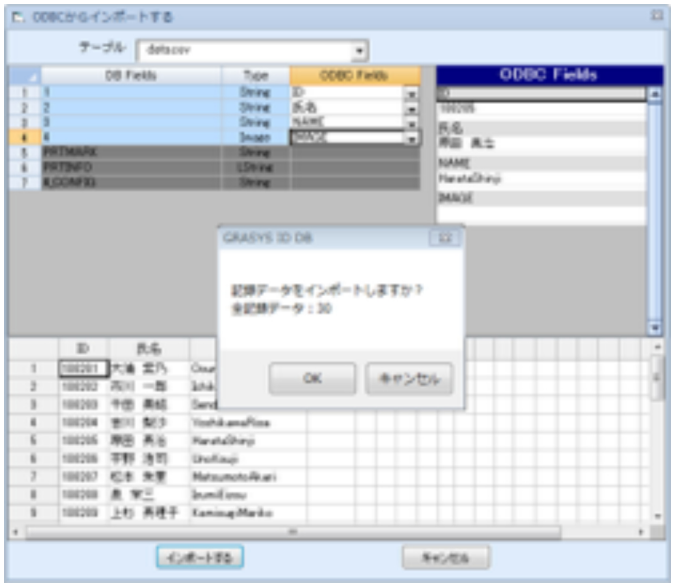
ODBC　データソースアドミニストレータ画面に登録したドライバー名が表示されますのでOKをクリックします。
ODBCデータソース選択画面に戻りますので、更新ボタンをクリックして下さい。
作成したデータソースの名称が表示されますので選択して確定ボタンをクリックします。



ODBCからインポートする画面に切り替わります



画面上部の左側はDBのフィールド名、右側は”csvファイルのフィールド"名です。 DBフィールドに適合するcsvのフィールドを選択して"インポートする“ ボタンをクリックするとcsvファイルのデータをDBに追加します。



インポート後はホームタブを選択してデータが追加された画面で作業を行うことができます。

2.5 デザインを変更する

　デザインを変更したい場合はリボンバー＞ホームタブ＞変更ボタンをクリックします。
ID DESIGNが起動し、プロジェクトで使用しているデザインファイル（コピー）を編集することができます。編集後、ウインドウを閉じる際にデザインの保存確認が表示されますので必ず保存して下さい。

2.6 フィールドを追加する

DBと連動しないフィールドを追加する

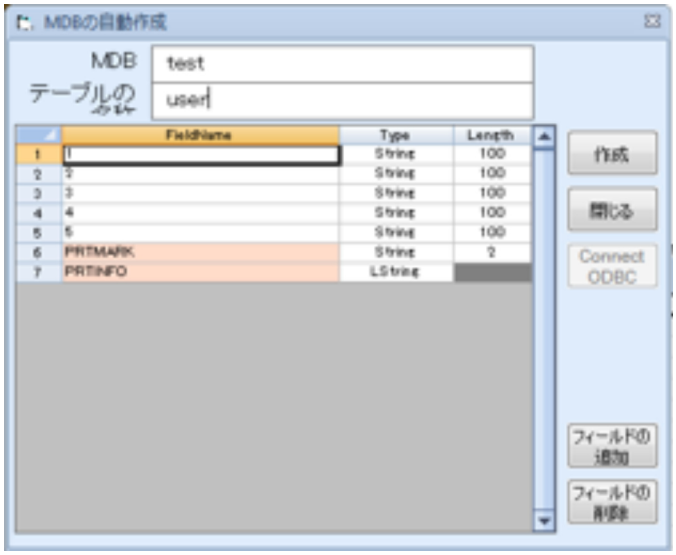
可変情報でないテキストや画像などの追加の場合はデザインの変更操作と同様です。

DBと連動するフィールドを追加する

1. はじめに、該当のプロジェクトファイルを開いたID DBソフトからリボンバーの変更ボタンをクリックしてデザインソフトを起動し、オブジェクトの追加と新しい入力フィールドを追加してデザインを保存しておきます。
2. 次に作成済みのデータベースにも項目を追加するためにリボンバー > データベースタブ > 切断をクリックします。
3. MDBに接続をクリックするとMDB管理画面に先ほど切断したmdbが表示されますので選択します。（自動作成していた場合はプロジェクト名と同じ名称のmdbです）



つづいてMDBの編集をクリックします。
MDBテーブルの管理画面に表示される同名のテーブルを選択してテーブルの編集をクリックします。
データベース側にも項目を追加するために、フィールドの追加ボタンをクリックすると最下段にフィールドが一列追加されます。



追加された新しいフィールドのFieldName部分を入力します、デザインで作成した入力フィールドと同名にしておくとわかりやすいでしょう。
更に、Type部分を選択してフィールドのデータの種類を下記から選択します。

String 文字列、デフォルトは100文字に設定。最大255文字まで設定可能

LString 256文字以上の長い文字列の場合

Number 数値の場合

Image 画像の場合

選択が完了したら確定ボタンをクリックして閉じます。
更に項目追加が必要な場合は確定ボタンをクリックする前に上記のフィールドの追加を繰り返して下さい。
※確定後にも編集機能で追加が可能です。
確定後、MDBテーブルの管理画面に戻りますので、フィールド接続ボタンをクリックします。
デザインに追加したフィールドとデータベースに追加したフィールドを確認して確定ボタンをクリックすると、フィールドが追加されたデータベースが出来あがります。
画面に項目が追加されたリストが表示されます。

TIPSデータの追加

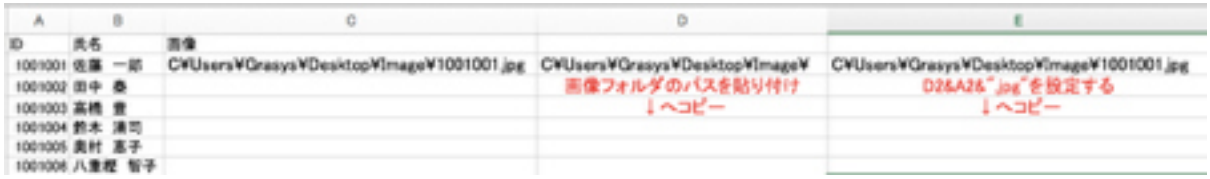
追加したフィールドにはデータが入っておらず、入力する必要があります。すでにエクセルなどの元データがある場合は、変更前にコピー等のバックアップをとります。
ファイルタブ＞データベースのエクスポート＞Excelデータをエクスポートするを選択し、DBで使用しているデータを書き出します。この書き出したExcelデータに項目を追加し、新たにインポートすることも可能です。
DBに新たにデータをインポートする場合は先にデータをエクスポートしておき、ID DBのホームタブでデータを表示して全て選択、削除ボタンを使用して削除しておきます。（削除しない場合は既存のデータにインポートしたデータが追加されます）

画像データの一括登録

画像データのファイル名がID番号等と同じでひとつのフォルダに収められている場合はあらかじめエクセルに画像のファイルパスとファイル名を登録しておくことができます。

例：画像ファイル名がIDと同じで拡張子がjpgの場合

画像を保存しておくフォルダを作成し、画像を入れておきます。
フォルダを開き、画像をひとつ選択して右クリック＞プロパティを表示します。
場所の欄の Cから始まる文字列をすべて選択してコピーしておきます。



上記の場合は１行目がフィールド名でID、氏名、画像で３列使用していますので
２行目（フィールド名がない場合は１行目）の４列目に文字列を貼り付けます。

５列目にはにエクセルの＆関数を使用して　=D2&"¥"＆A2&".jpg" と入力すると、保存した

フォルダのファイルパスとファイル名が出来上がります。
（Dのファイルパス文字列に¥記号とID番号と拡張子の.jpgをつなげた文字列です）
この二つの項目を下方向へコピーすると全ての画像のファイルパスとファイル名が出来上がります。
このままでは関数が入っているため、５列目に出来上がった文字列を範囲選択して、コピーします。
画像の項目（３列目）にカーソルを移動して右クリック、形式を選択して貼り付けで値を貼り付けます。※関数を取り除き、結果だけを貼り付けています。
貼り付けた３列目と５列目の内容を比較し問題がなければ４列目、５列目を削除して下さい
このエクセルデータをインポートすると画像が自動的にID DBに表示されます。
画像が表示されない項目は拡張子やファイル名が大文字/小文字で異なるなどの場合があります。
"…"をクリックして直接画像を選択することが出来ます。

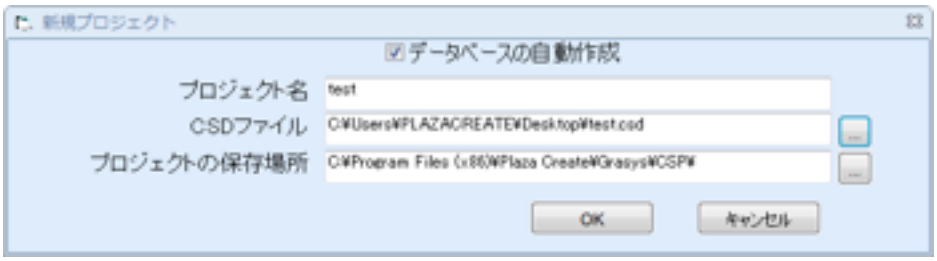
3 主な機能

この章では主な機能を説明します。

3.1 新規プロジェクトの作成

新規プロジェクトはGRASYS ID Designからデータベースへのリンクをする CSDファイルを使用して作成します。
あらかじめ入力オブジェクトを設定済のデザインファイル（csd）を準備して下さい。

"新規プロジェクト"ウィンドウで新しいプロジェクトを作成します。

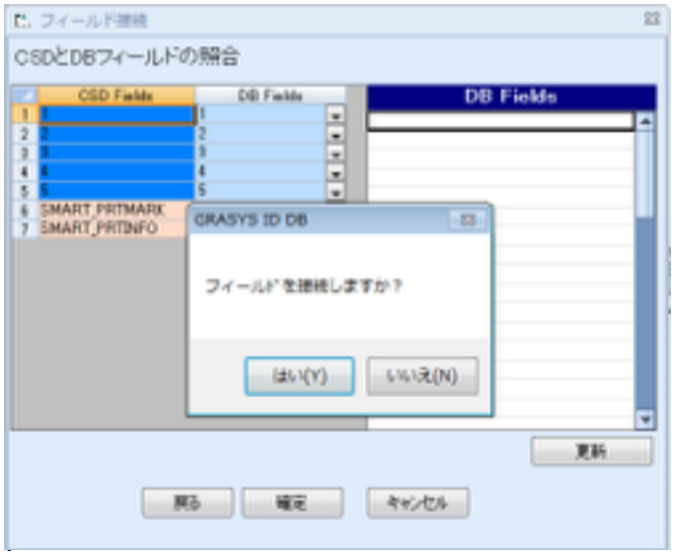


"プロジェクト名"にプロジェクト名を入力します。 右側の"..."ボタンをクリックして、CSDファイルを選択します。 選択した後、CSDファイル名は"プロジェクト名"に適用されます。 新しく作成したプロジェクトは“プロジェクトの保存場所”で選択した ディレクトリに保存されます。 "..."をクリックして保存場所を選択します。 "データベースの自動作成"は CSDファイルのフィールドとして自動的に データベースを作成し、接続する機能です。 既存のデータベースと接続されている場合は、このセクションのマークを削除する必要があります。 プロジェクトファイルは"プロジェクトの保存場所"に設定した ディレクトリ下のフォルダに.cspとして生成されます。

3.2 データベースの作成/修正

3.2.1 データベースの自動作成

"新規プロジェクト"ウィンドウ”でデータベースの自動作成にチェックが入っている場合はMDBデータベースが自動作成され、CSDファイルの入力フィールドに接続されます。



"CSDフィールド"の列で、青色部は、CSDファイルの "フィールド名"です。 ピンク部は、印刷記録の項目でGRASYS ID DBで 使用されています。黄色部は、画像のフィールドです。これらは自動的に作成 され、CSDフィールドの画像と接続されます。
※GRASYS ID DBと画像オブジェクトを接続している場合はフィールド名の最後の部分に"config”が追加され、画像の編集内容をデータベースに記録します。

フィールドの接続 "フィールドを接続しますか?"が表示されるので、"はい"を選択して自動的にCSDフィールドとDBのフィールドが接続されます。

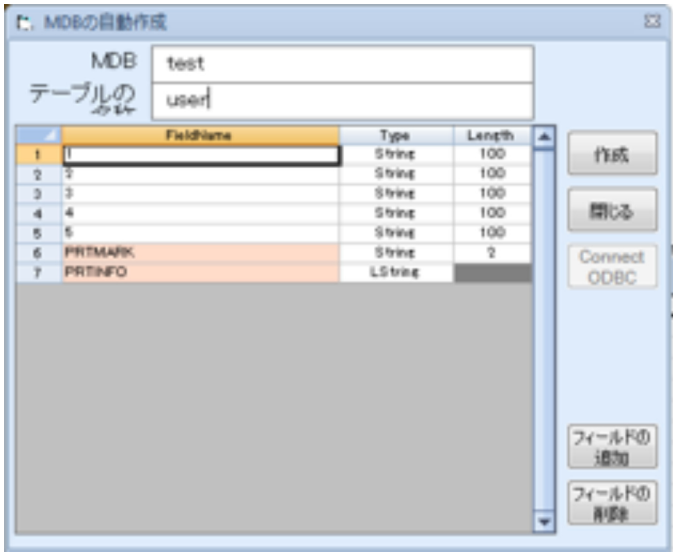
3.2.2 データベースを手動作成する

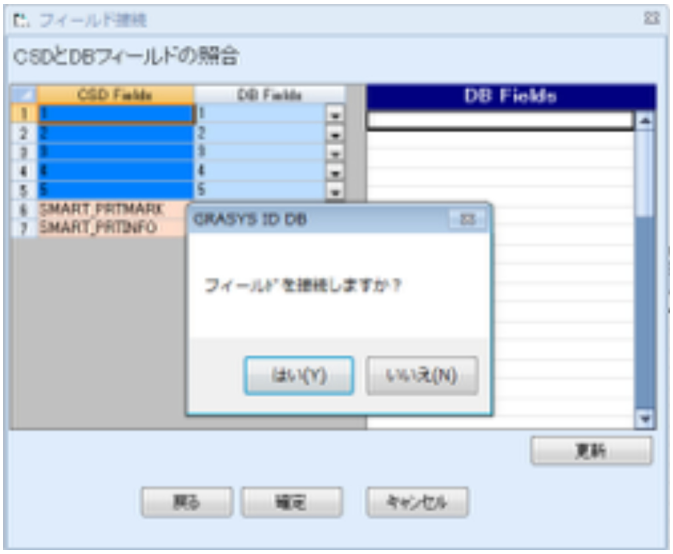
手動でデータベースを作成したい場合やODBCに接続したい場合は"データベースの自動作成"のチェックをはずします。"MDBに接続"ボタンをクリックすると、MDB管理画面が表示されます。



3.2.2.1 MDBの自動作成

"MDBの自動作成"ボタンをクリックすると、図18が表示されます。 "MDB"は作成されたMDBファイルの名前です。ここで名前を変更することができます。"テーブルの名称"はMDBファイルのテーブル名を作成したことを 意味します。DBのテーブル構造は、CSDファイルのフィールド構造に従って作成されます。"作成"ボタンをクリックするとDBが作成され、自動的に以下のようCSDファイルのフィールドと接続されます。

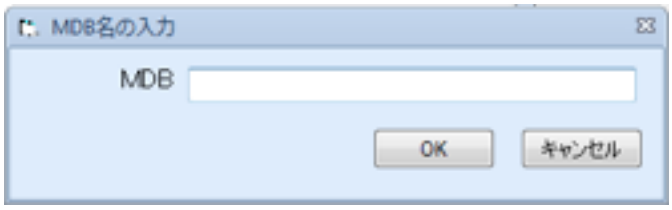




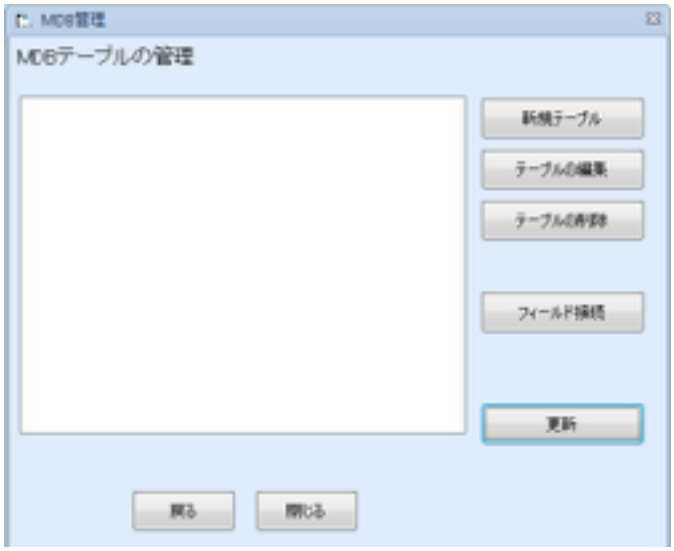
"フィールドを接続しますか?"で"はい"をクリックすると、CSDファイルのフィールドとDBのフィールドがリンクされます。 "いいえ"をクリックすると、フィールドは連結されません。

3.2.2.2 MDBの作成

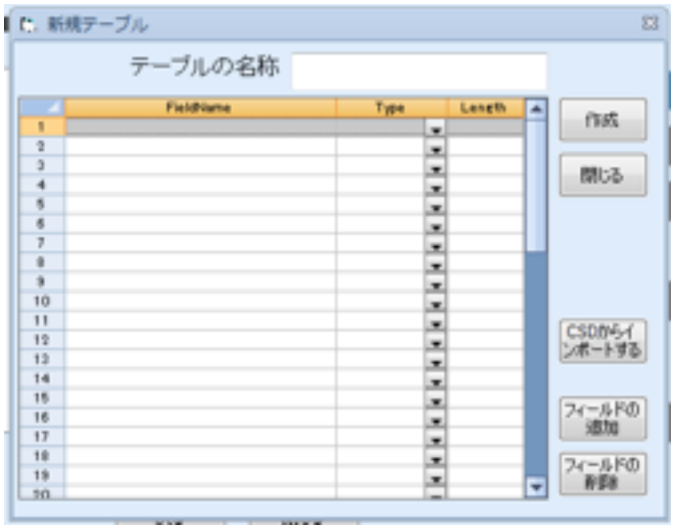
"MDBの作成"をクリックし、"MDB名の入力"ウィンドウが表示されます。
入力してMDB名を付けることができます。



MDB名の入力 "OK"ボタンをクリックすると、"MDBテーブルの管理"ウィンドウに表示されます。



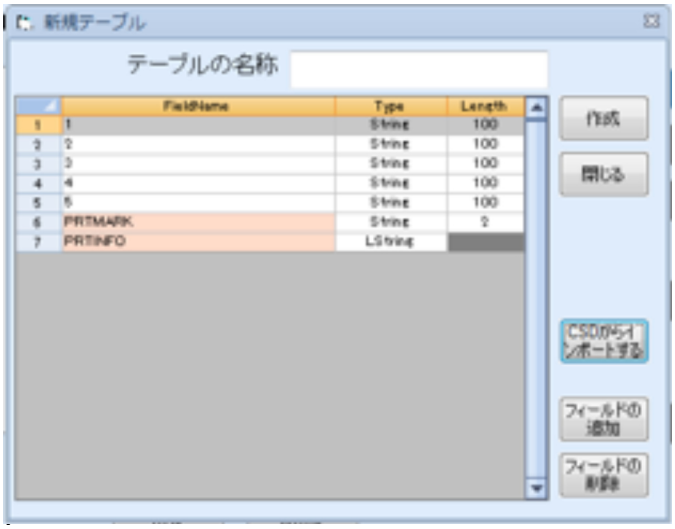
選択したMDBファイルは、左のリストに表示され、テーブルを作成、編集、 および削除することができます。新しくテーブルを作成するには、 "新規テーブル"を クリックしてください。



"テーブルの名称"セクションにテーブル名を入力します。
テーブルを設定するには手動か、CSDファイルの入力フィールドを利用するかを右側のボタンで選択できます。

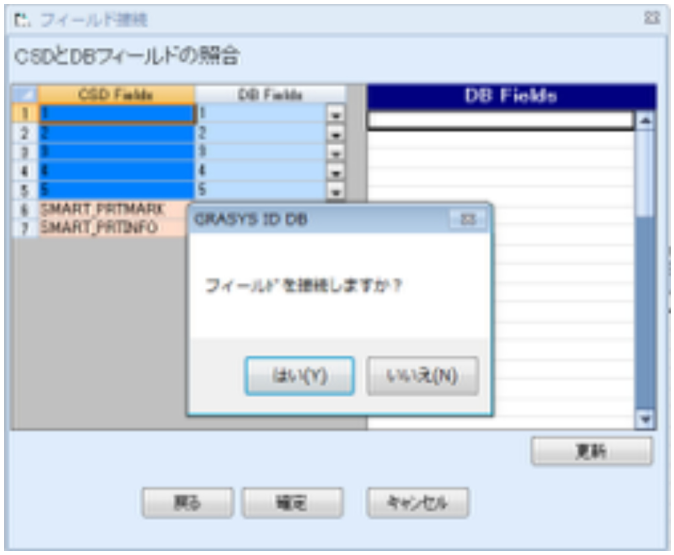
手動でフィールドを設定するには、FieldName列をダブルクリックしてデータを入力し編集します。Type列でフィールドタイプを設定します。 Length列には、フィールドの最大データサイズを設定することができます。

CSDファイルの入力フィールドを利用するには
"CSDからインポートする"ボタンを使用します、テーブルのフィールドは CSDファイルのフィールドの構造に応じて自動的に設定されます。



新規テーブルの作成-CSDからのインポート "作成"ボタンをクリックすると、ポップアップ表示されます。

MDB管理
更新ボタンをクリックすると作成したテーブルが表示されます。
選択したテーブルを変更するには、 "テーブルの 編集"ボタンをクリックしてください。選択したテーブルを削除するには、 "テーブルの削除"ボタンをクリックしてください。 "フィールドの接続"をクリックすると、フィールドに接続すること ができます。



3.3 ODBC接続

ODBCをサポートする種々データソースに接続することができます。
マイクロソフトのデータソースアドミニストレータを利用しますので、デフォルトでインストールされているODBCドライバはWindows７の場合は下記のとおりです。

テキストまたはCSVファイル　＊注意：読込のみ、更新・削除不可
Access　mdbファイル
DBASE dbfファイル
Excelファイル　※関数・マクロを含まないファイル
Paradoxファイル
Visual FoxPro
SQL Server

※他のデータベースを使用する場合は各社から配布されている専用のODBCドライバーをインストールしておく必要があります。
※印刷記録等保存のために接続するデータベースに考えておりますカラム（String）を２つ追加しておく必要があります。（可変画像がある場合、３つ）

GRASYS ID DBソフトウェアであらかじめプロジェクトを作成しておきます。
データベースタブで「切断」をクリックして、プロジェクト作成時にID DB内部に作られたデータベースを切り離します。

「ODBCに接続」ボタンをクリックすると、ODBCデータソース選択画面が表示されます

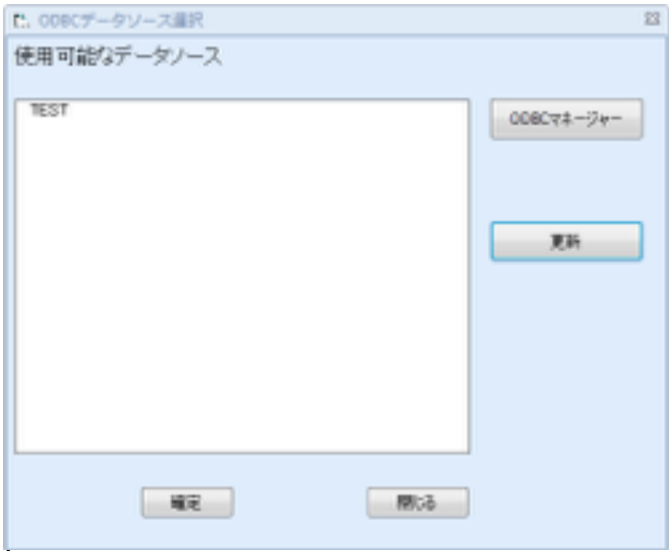


図26 ODBCデータソース選択

データソースを作成すると、画面左側にで接続することが可能なリストとしてデータソース名が表示されます。
はじめてデータソースを作成する場合は「ODBCマネージャー」ボタンをクリックします。
「ODBCデータソースアドミニストレータ」画面が表示されます。

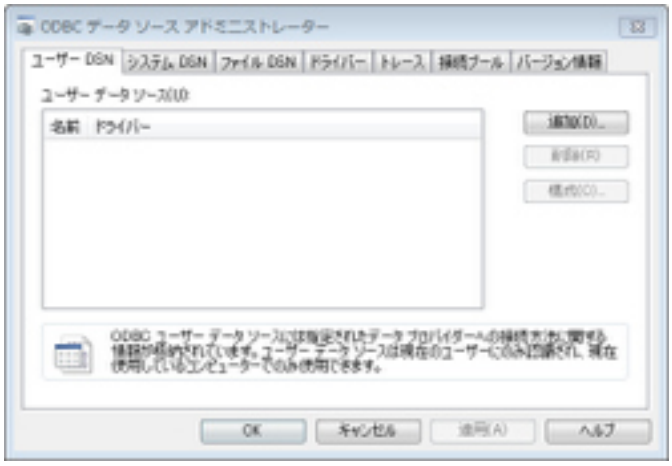
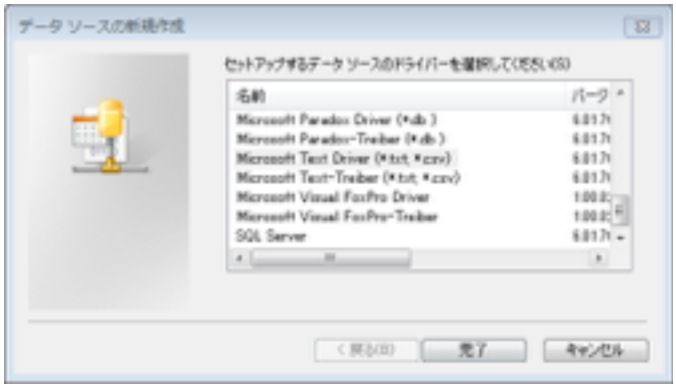


図27 ODBCデータソースアドミニストレータ

ユーザーDSNタブを選択して、追加ボタンをクリックします。

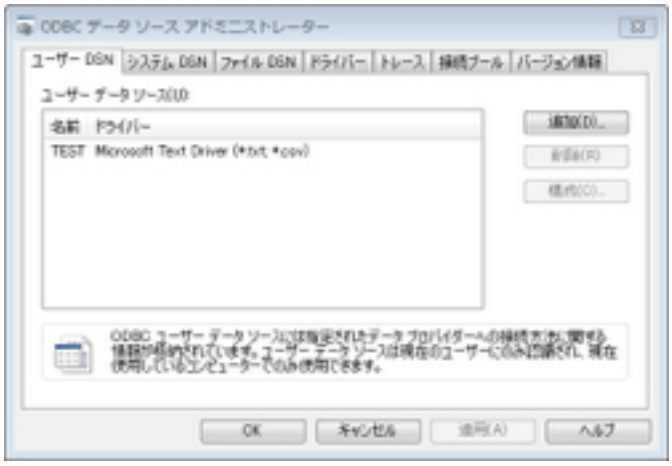


データソースの新規作成画面が表示され、使用するドライバーを選択するとそれぞれのデータソースに応じたセットアップ画面が表示されます。



データソース名を入力し必要に応じて説明を入力してください、この名称と説明がデータソース選択画面に表示されます。

OKボタンをクリックするとユーザーDSNに作成したデータソース名が表示されます。



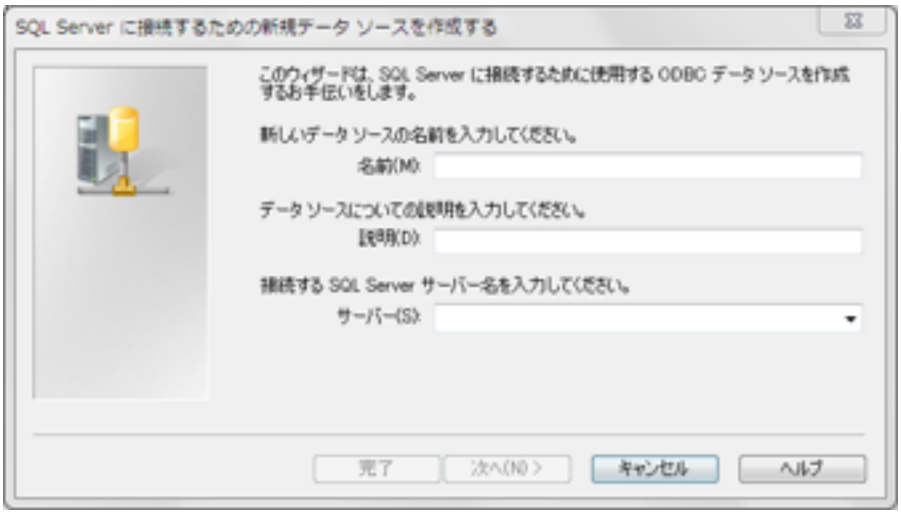
作成したデータソース名を選択して「構成」ボタンをクリックまたはデータソース名をダブルクリックすると、接続の構成内容が表示されます。
構成内容は接続するデータベースにより画面や設定内容が異なりますのでシステム管理者様等へ内容を確認してください。
一覧にない場合はデータベース各社提供のドライバーが必要です。
・サーバー型のデータベースの場合
　　一覧にない場合は各社提供のドライバーが必要です。
　　接続のためのホストサーバー名、接続ポート、ログインユーザー・パスワード、データベースの名称、使用するテーブルの名称などの情報が必要です。

MySQLサーバーの例



サーバーのIPアドレス、ポート番号、ユーザー名、パスワード、データベース名などの設定項目があります

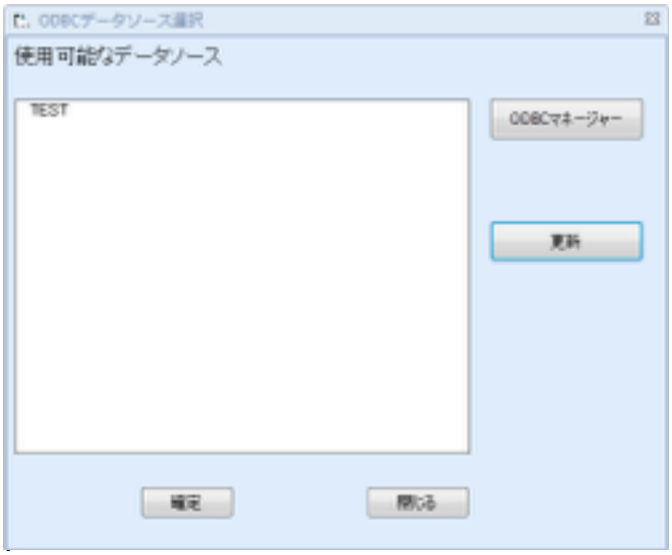
SQLサーバーの例



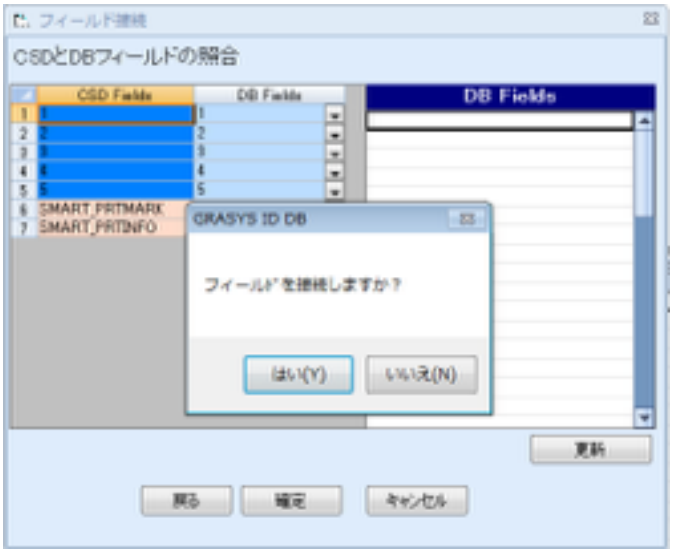
ファイルメーカーの例



データソースの設定後、OKボタンをクリックするとODBCデータソースアドミニストレーター画面が表示されます。
同画面でOKをクリックすると、データソース選択画面の使用可能なデータベースのリストに作成したデータソース名が表示されます。
※表示されない場合は更新ボタンをクリックします。



作成したデータソースを選択してテーブル選択ボタンをクリックすると、Available Tables and Views画面が表示され、使用するテーブルを選択することができます。
テーブルを選択した後、"フィールド接続"ボタンをクリックするとフィールド接続画面が表示されます。



フィールド接続
CSDフィールドと連動するDBフィールドを接続します。 連動する項目をあわせて設定し、確定ボタンをクリックすると”フィールドを接続しますか？”の確認ウインドウが表示されますので「はい」を選択して終了します。
GRASYS ID DBのホームタブを選択すると、データベースと接続した項目がリスト表示されます。

データソースの追加例：エクセルファイルをODBC接続する

＜エクセルご利用時のご注意＞

※エクセルの場合、そのままではデータをテーブルとして認識できません。あらかじめシートのデータ範囲に名前を定義しておくことで、データ範囲をテーブルとして扱うことが出来ます。この定義名がテーブル名になります。

　Ctr+F3キーまたはメニュー＞挿入＞名前＞定義で設定可能

※ID DBは印刷の有無、実施時間等をデータに記録します、データソースのエクセルファイルにもこれらを記録するために項目を２列追加しておく必要があります。

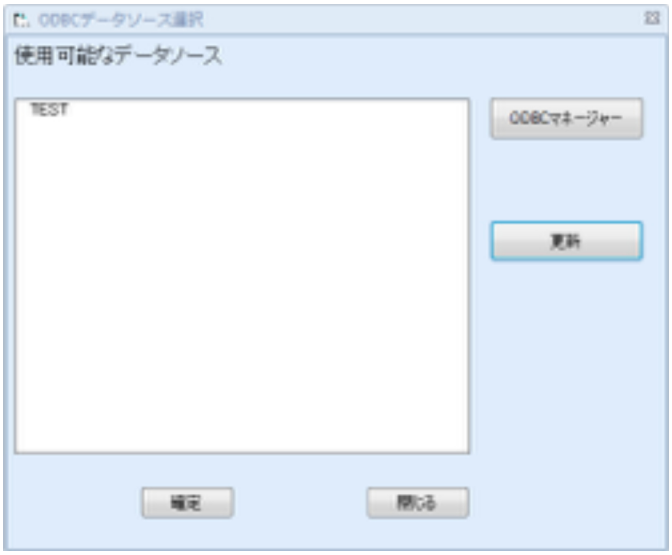
項目名はそれぞれ、SMART_PRTMARK と SMART_PRTINFO としておくと接続の際にわかりやすく便利です。

※入力フィールドに画像が含まれている場合は更にCONFIG項目を追加しておきます。この項目には画像調整の内容が記録されます。

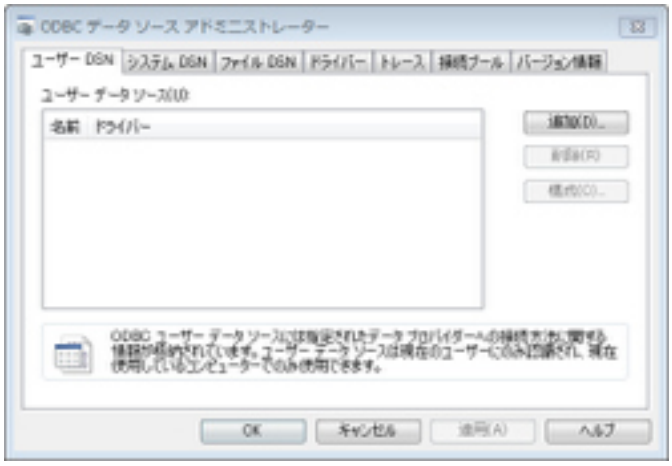
注）関数が含まれるエクセルファイルは使用することが出来ません。

接続手順

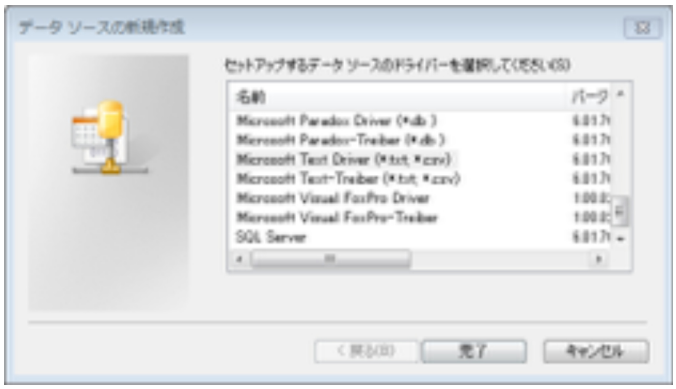
ODBCデータソース選択画面のODBCマネージャーボタンをクリックします。



ODBCデータソースアドミニストレータ画面が表示されます。



ユーザーDSNタブを選択して追加ボタンをクリックし、データソースの追加を開始します



ドライバーの一覧が表示されますので該当するドライバーを選択します。
　※エクセルを使用しますのでMicrosoft Excel Driverを選択します。

完了をクリックすると、ODBC Microsoft Excel セットアップ画面に切り替わりますので下記を入力、選択します。

データソース名：ソース名を適当な名称で入力します

説明：ソースの説明を入力します（必須ではありません）

データベースバージョン（リスト）：エクセルファイルのバージョンを選択します。

ブックの選択（ボタン）：クリックして該当のエクセルファイルを選択します。

OKボタンをクリックしてODBC Microsoft Excel セットアップ画面を終了します。

ODBCデータソース選択画面の更新ボタンをクリックすると追加したデータソースが表示され、選択することが出来ます。

ソースを選択後 "テーブル選択"をクリックすると、"Available Tables and Views"が表示され、 テーブルを選択することができます。

テーブルの選択後、"フィールド接続"ボタンをクリックすると確認画面が表示されますので「はい」を選択して終了します。。

3.4 データベースの保存

CSDファイルとデータベースの接続情報は、プロジェクトファイル(.CSP)に 保存されます。

プロジェクトを保存するには、"ファイル">"保存"をクリック するか、[ホーム]タブか[ファイル]タブ>保存をクリックしてください。

3.5 データベースを開く

[ホーム]タブか[ファイル]タブ＞“ファイル”＞“開く”ボタンで プロジェクトファイルを開くすることができます。ファイルを開くときに CSDフィールドは自動的にデータベースフィールドに接続されます。

3.6 データを追加する

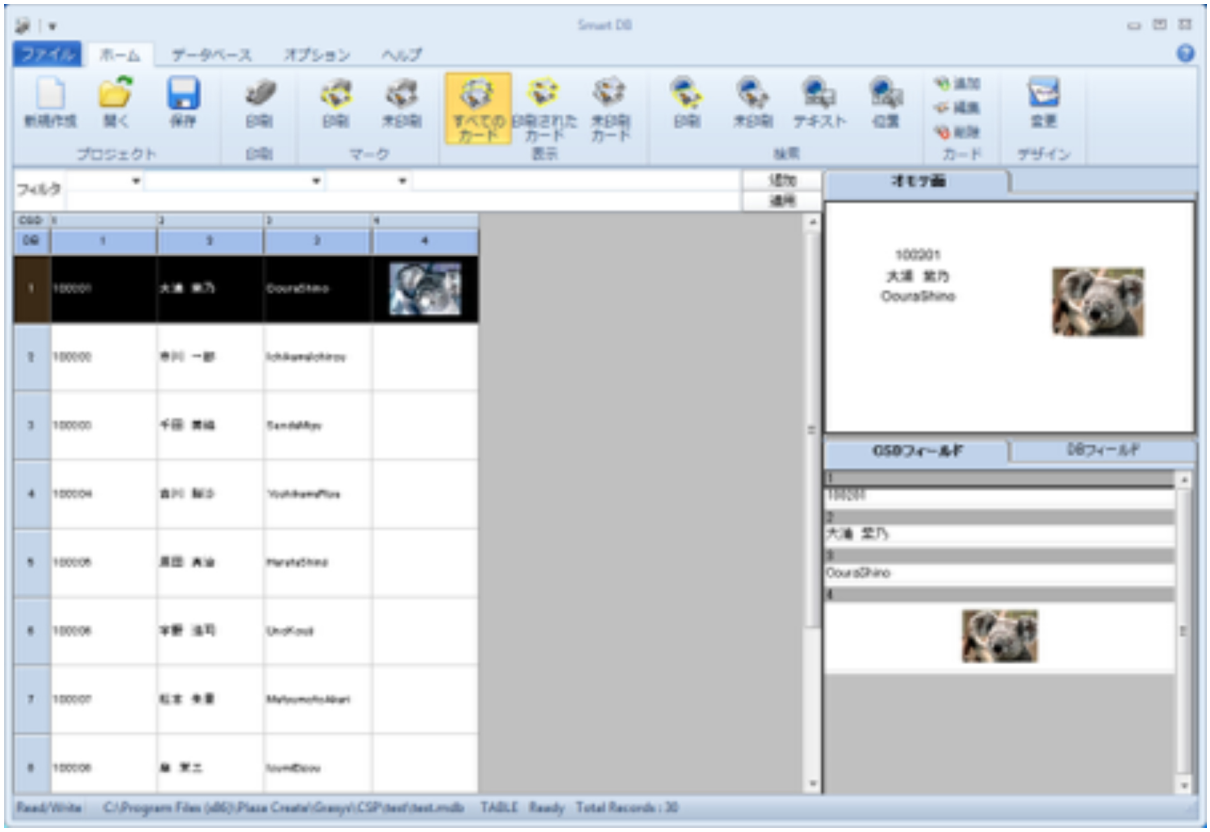
[ホーム]タブか[ファイル]タブ＞“データベース"＞"追加"で新しいカードを 追加します。

図31 データを追加する

3.7 画像の編集、変更

Tips　IDカードで使用する顔画像のデータサイズ

標準的なサイズ：縦３㎝ｘ横2.4㎝の場合、ピクセルサイズは354ｘ286ピクセルです。
計算例
縦３㎝÷2.54㎝（１インチ）=1.18インチ／ 横2.4㎝÷2.54㎝（１インチ）=0.954インチ
印刷時の解像度は300Dpiですからそれぞれ
縦1.18インチｘ300Dpi＝354ピクセル/ 横0.954インチｘ300Dpi＝286ピクセルとなります。
縦354ピクセルｘ横286ピクセル＝101,224ピクセル（約10万画素）
画素数では約10万画素程度ですので、高画素のカメラ等で撮影した画像は大きすぎることがわかります。あらかじめ画像サイズ変換ソフトなどを使用して、画像サイズを小さくしておくと印刷データが軽くなり、印刷ソフトへの負荷が小さく、パソコンの保存容量も少なく収めることが出来ます。



画像フィールドに接続されている画像を変更したり、画像のサイズと位置を簡単に編集することができます。 右側のプレビュー画面に表示された画像か下部の "CSDフィールド"の画

像をダブルクリックすると編集画面が 現れます。中央の青い枠線は、画像フィールドのサイズです。 画像の位置を変更するには、マウスの左ボタンを使用します。 (ドラッグ)

画像編集画面の機能

Brightness：明るさ調整
Contrast：コントラスト調整
Rotate：回転角調整
Zoom：拡大率調整

Auto Portrait：人物の顔を中心に自動的に大きさを調整します
Auto Effect：明るさとコントラストを自動調整します

Set as Saved：保存した設定を適用します
Set as Default：デフォルトに戻します

“Apply"ボタン：変更内容を保存した後ウィンドウを閉じます
“Apply All"ボタン：データベース内の全ての画像に同じ設定を適用します
＊画像サイズ、データの量により時間がかかります
”Cancel”ボタン： 保存せずに閉じます

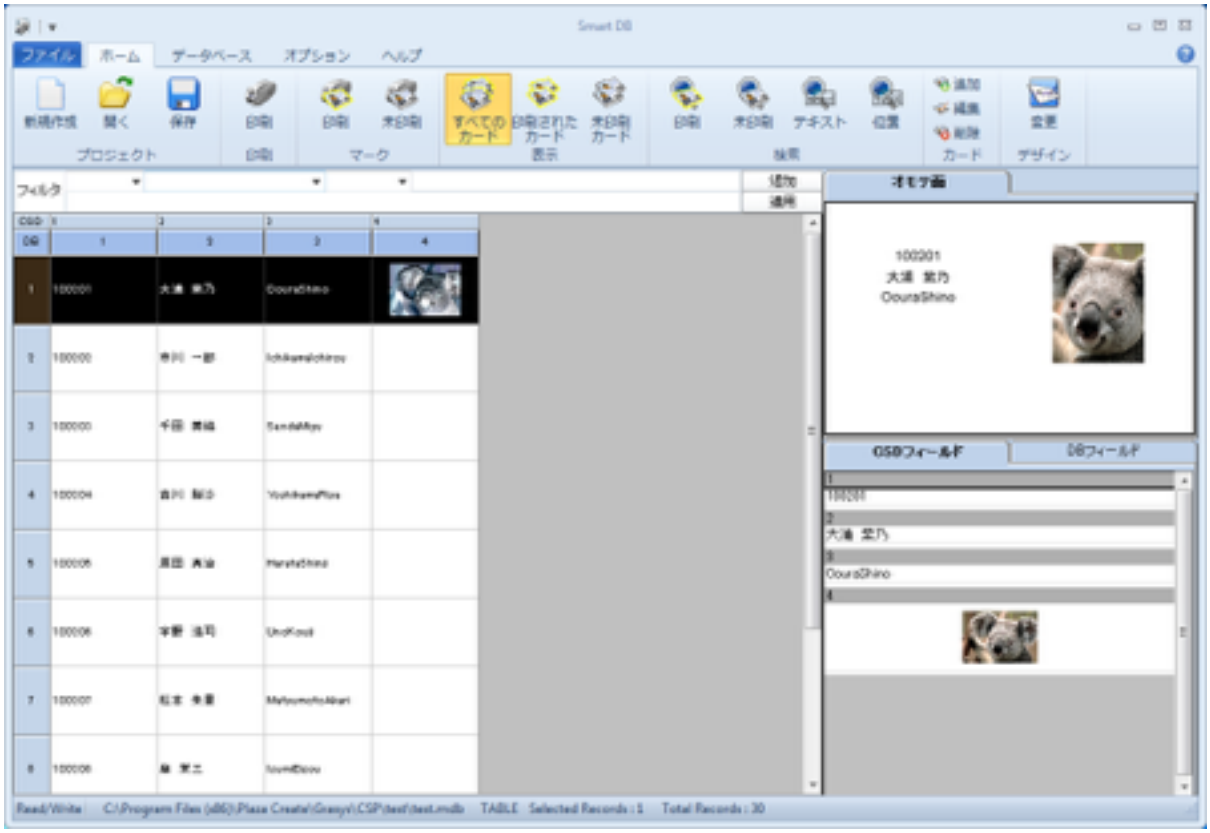


画像編集



ズームでサイズを拡大し、中央に寄せた例

画像編集はプレビュー画面のみに適用されます。編集内容はデータベースに記録され、元画像は編集されませんので、いつでも元に戻すことができます。そのため、CSDフィールドとデータに表示された画像は元の画像のままになっています。



プレビュー画面適用例

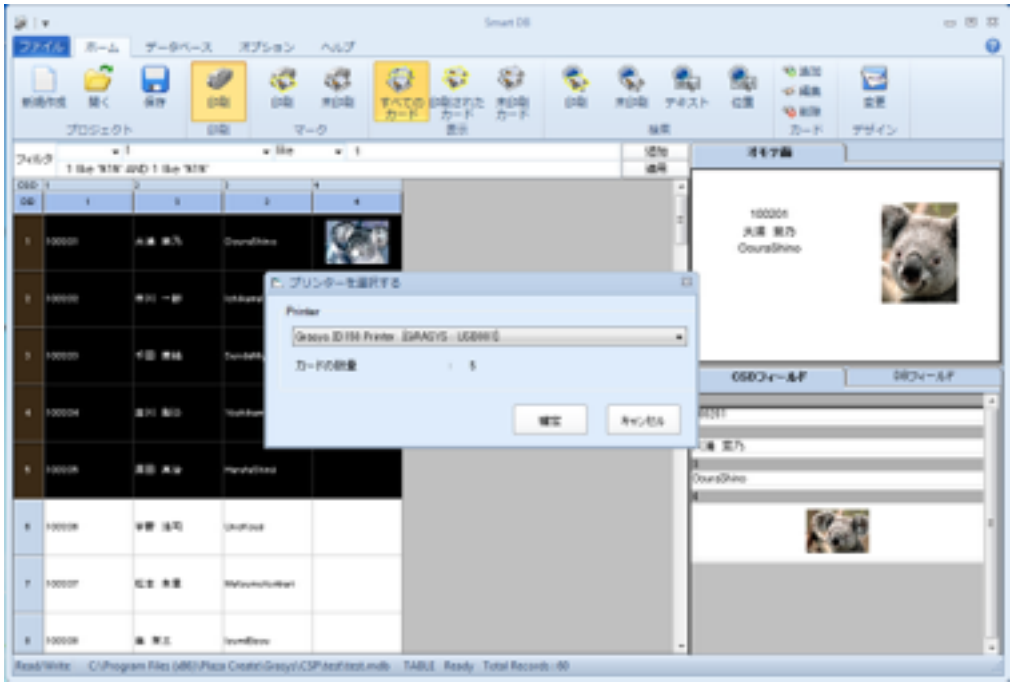
3.8 データを選択する

プリンタのデータを印刷したり、削除するデータを選択することができます。 データを選択すると、すべての行が選択されます。より多くのデータを選択する には、マウスの左ボタンをクリックしてドラッグします。 ランダムな複数行のデータは、Ctrlキーを押しながら行をクリックして選択します。

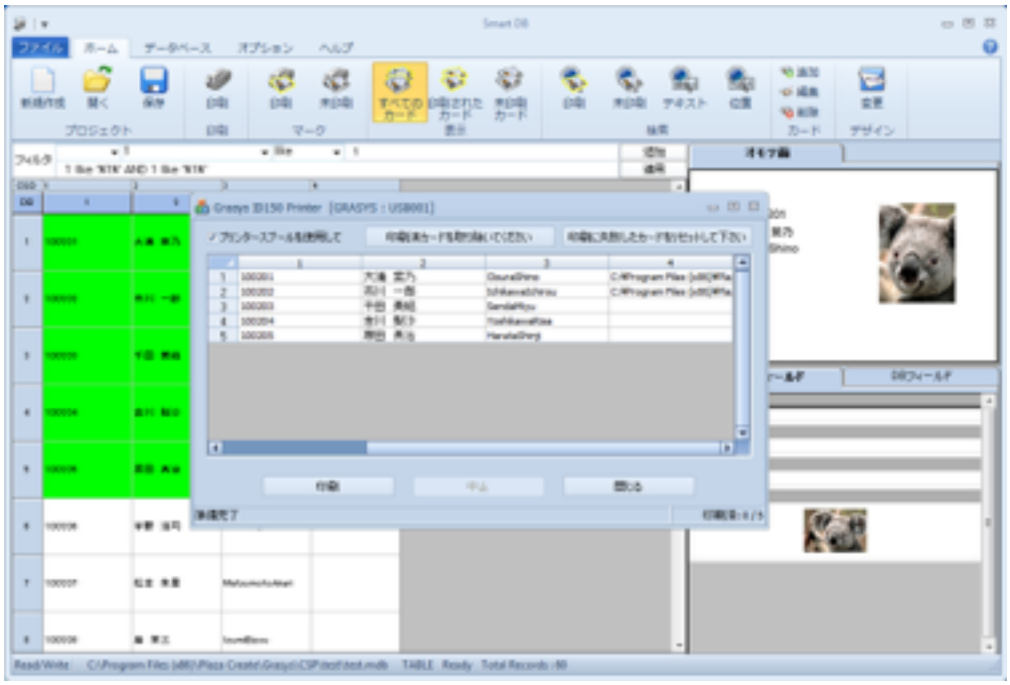
3.9 データを印刷する

データ選択後、カードを印刷するには、"ファイル">"印刷"をクリックするか、リボンバーリボンバー>印刷アイコンをクリックします。

プリンターの選択ウインドウが表示されますので
印刷するプリンタを選び、 "OK"ボタンをクリックします。



印刷準備ができたリスト画面に切り替わります。



複数の印刷データがある場合は、連続してデータを印刷することができるように “プリンタースプールを使用して印刷する"をチェックします。

データの背景色は下記の状態をあらわしています

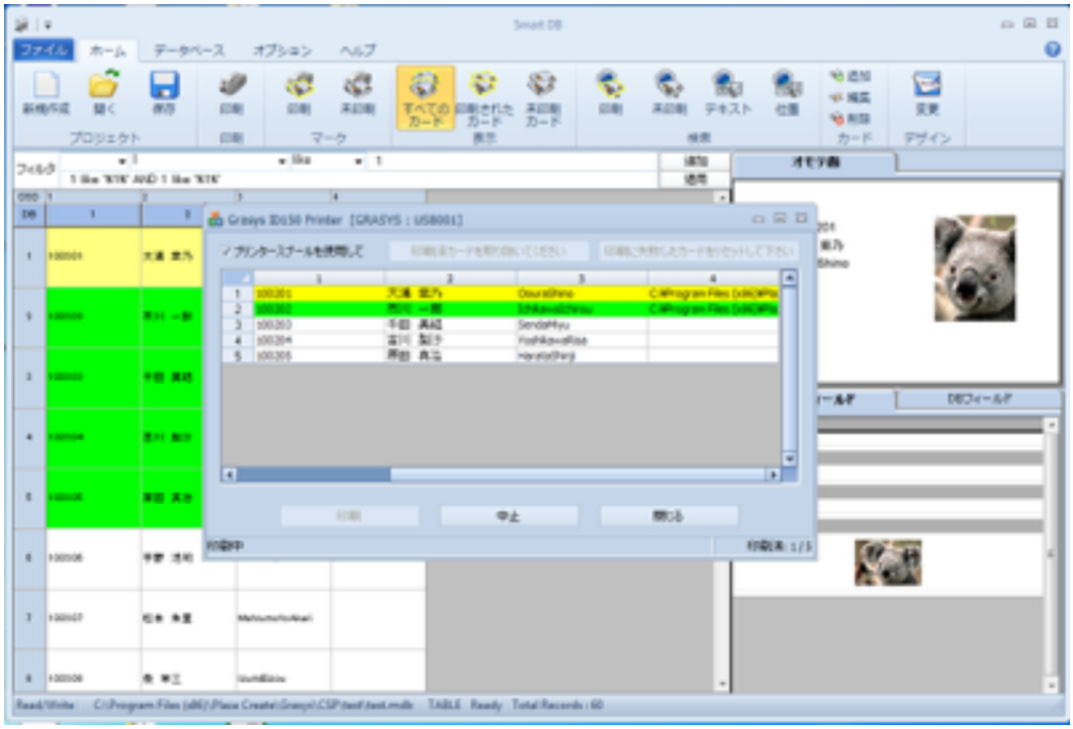
白色:　印刷可能

淡黄色:　印刷済

黄緑色: 印刷中

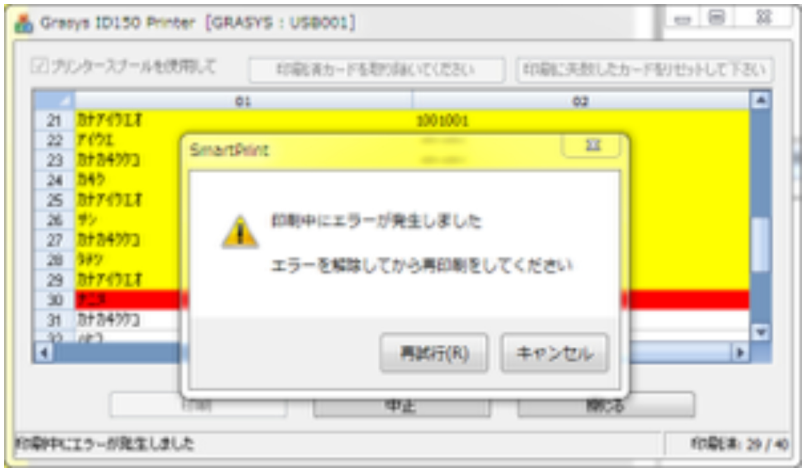
黄色:　印刷完了（印刷中）

赤:　エラー （印刷中）



印刷時のエラー

エラーが発生した場合は再試行／キャンセルウインドウが表示されます。
プリンターのエラー表示を確認して下さい。（ID130の場合はWatchmanを使用）



ほとんどの場合、再試行ボタンをクリックするとエラーカードが排出され、エラーが発生したデータを再度印刷します。
※プリンターのエラー表示がエラー15またはMagnetic R/W errorの場合は磁気の書込に失敗しています、磁気書込は印刷前に行うため、エラーカードは再利用することが出来ます。

※印刷工程で発生したエラーの場合はカードを再利用することは出来ません。

3.10 データの印刷状態の変更

重複発行を防止するため、一度印刷したデータはそのままでは再印刷することが出来ません。 再印刷する場合は該当の行を選択してリボンバー＞マーク＞“未印刷”ボタンをクリックすると状態が未印刷になり印刷することが出来ます。 未印刷のデータで印刷対象から除外したい場合はマーク＞ "印刷"をクリックすると印刷済の状態に変化します。

3.11 データ検索

ホームメニューの検索パネルの下記アイコンをクリックするとデータの検索が可能です。

印刷：印刷したデータだけを表示
未印刷：未印刷のデータだけを表示
テキスト：文字列を入力して合致するデータを検索
位置：データの番号（行）を指定して表示します

3.11 データの検索

大量のデータからデータを検索したい場合フィルターバーを使用します。



フィルターバー

1つ目のセクション:

AND： 複数の条件があった場合、全て満たす。
OR： 複数の条件があった場合、いずれかを満たす。

2つ目のセクション:

検索するフィールド名を選択する。

3つ目のセクション:条件”を指定する

= 検索対象と条件が一緒
like 検索対象に条件が含まれている
> 検索対象の方が条件より大きい
< 検索対象の法が条件より小さい
< > 検索対象と条件が異なる

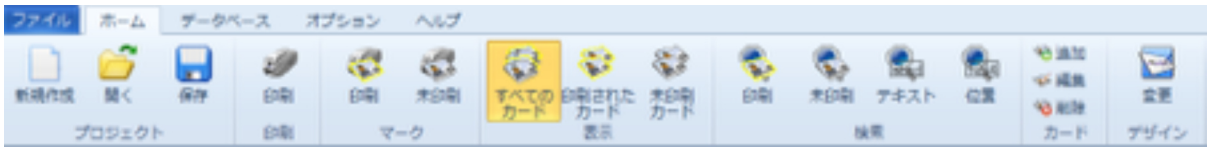
4つ目のセクション:条件入力

追加ボタンで複数の条件を指定可能です。

テキスト検索

検索機能でテキストなどを直接検索することができます。テキストボタンをクリックし、検索したい文字列を入力して検索ボタンをクリックします。

4 リボンバーの機能



4.1 [ホーム]タブ

＜プロジェクト＞

プロジェクトはデザインとデータの組合せです。
新規作成、既存ファイルを開く、保存を行ないます。

4.1.1 新規作成



新規プロジェクトを作成する。

4.1.2 開く



既存のプロジェクト（cspファイル）を開く。

4.1.3 保存



プロジェクトを保存する。

＜印　刷＞

プロジェクト内で選択したデータを印刷します。

4.1.4 印刷



選択したデータを印刷する。

＜マーク＞

データを印刷済または未印刷の状態にします。
未印刷データで印刷から除外したい場合や、再発行などで印刷済のデータを再度印刷したい場合に使用します。

4.1.5 印刷



選択したデータを印刷済みにする。

4.1.6 未印刷



選択したデータの印刷済みを解除する

＜表　示＞

印刷済のみ、未印刷のみ、または全てのデータを表示します。

4.1.7 すべてのカード



データベース上の全てのデータを表示させる。

4.1.8 印刷されたカード



印刷済みのデータを全て表示する。

4.1.9 未印刷カード



未印刷のデータを全て表示する。

＜検　索＞

データを検索します

4.1.10 印刷されたカード



次の印刷済みカードを探す。

4.1.11 未印刷カード



次の未印刷カードを探す。

4.1.12 テキスト



テキストボックスに入力した条件を満たすカードを探す。

4.1.13 位置



入力した行のカードを探す。

＜カード＞

データの追加、編集、削除を行ないます

4.1.14 追加



カード情報を追加する。

4.1.15 編集



選択したカードを編集する。

4.1.16 削除

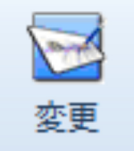


選択したカードを削除する

＜デザイン＞

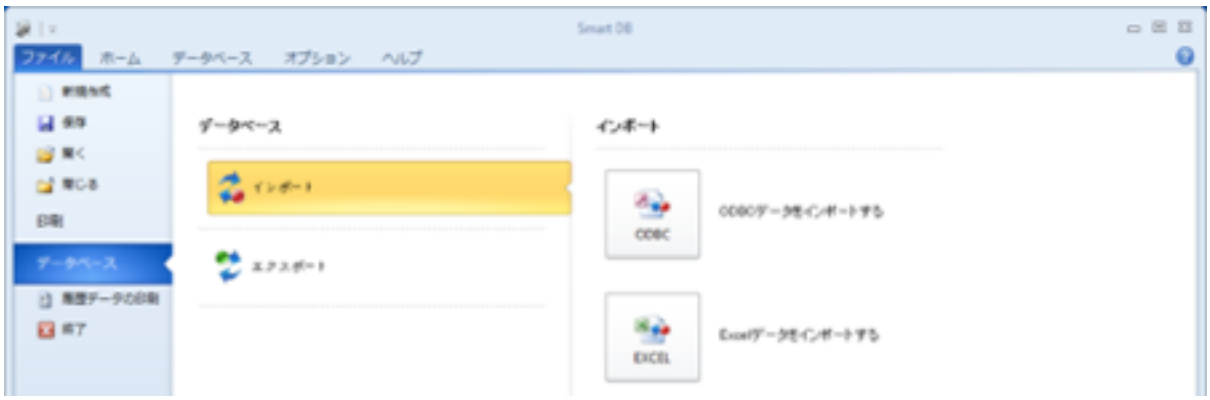
プロジェクトのデザインを変更します。
※プロジェクト用にコピーされたデザインを編集します、元担ったデザインは変更されません。

4.1.17 変更

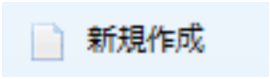


GRASYS ID Design を起動する。

4.2 [ファイル]タブ



4.2.1 新規作成



新しいプロジェクトを作成する。

4.2.2 保存



プロジェクトを保存する。

4.2.3 開く



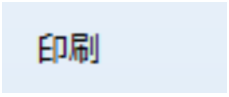
既存のプロジェクト（cspファイル）を開く。

4.2.4 閉じる



プロジェクトを閉じる。

4.2.5 印刷



プロジェクトを印刷する。

BMPファイルとしてプレビューを保存



カードデザインをプレビュー用にBMPファイルとして保存する。

4.2.6データベース

4.2.6.1 インポート



ODBCデータをインポートする



ODBCを通して他のデータベースからデータをインポートできます。 メニューを実行すると、ウィンドウを開き ODBCデータソースが表示されます。

EXCELデータをインポートする



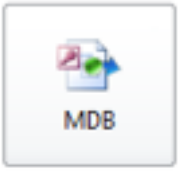
EXCELファイルからデータをインポートします、実行するとファイルを選択してデータを取り込むことが出来ます

4.2.6.2 エクスポート



この機能を使用して、現在のプロジェクトデータを保存することができます。

MDB



mdbファイル形式でエクスポートします

Excel



excelファイル形式でエクスポートします

Excelへエクスポートするウインドウが開きます。

データフィールドとプロジェクトのすべてのデータが画面下部に表示されます。 画面右上で選択したデータの内容を確認することができます。 また、左上にDBのフィールド名とmdb(またはExcel)のフィールド名を確認することができます。

＊MDBの場合

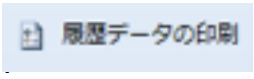
エクスポート画面の上部に全記録データ数を表示、エクスポートするテーブル名を入力することができます。

＊Excelの場合

エクスポート画面の上部に全記録データ数と 追加フィールドが表示されます。 "追加フィールド"にチェックを入れると、印刷結果フィールド、 印刷履歴フィールド、イメージフィールド、履歴フィールドをExcelファイルにエクスポートします。画像を書き出すイメージフォルダ名のデフォルトは”プロジェクト名ーImage”となっており、イメージフォルダ欄で変更することができます。

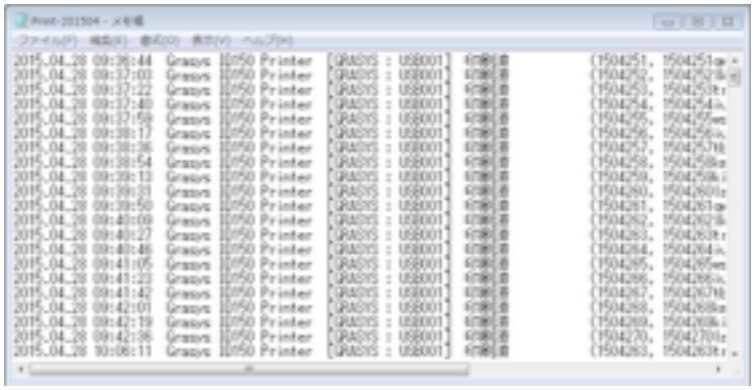
エクスポートしたエクセルの画像ディレクトリ列には、上記のフォルダのパスと保存された画像ファイル名を書き出します。“エクスポートする”をクリックするとファイル名と場所を指定してエクスポートします。

4.2.8 履歴データの印刷



データの印字履歴を印刷します。

印刷履歴は、印刷時刻、日付、使用するプリンタID、プリントの結果、エラー、エラーコードと使用されるデータの情報を記録します。



印字履歴例

4.2.9 終了



プログラムを終了する.

4.3 [データベース]タブ



＜接続＞

4.3.1 MDBに接続



既存または新しいMDBと接続します。



4.3.2 ODBCに接続

ODBCマネージャーを使用してデータベースに接続します

4.3.3 切断



現在接続しているデータベースを切断します。

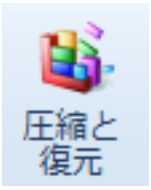
＜設定＞

4.3.4 フィールドの設定



フィールド接続画面が開き、現在開いているプロジェクトのCSD項目とDBフィールドの照合と変更ができます。

4.3.5 圧縮と復元



データベースを圧縮・復元します。

<DBのセキュリティ>

4.3.6 パスワード



データベースにパスワードを設定することができます。

＜カード＞

カードの追加、編集、削除機能、ホームタブの同ボタンと同様の機能です。

5.サンプルデータ

　GRASYSインストールCDのGRASYSサンプルデザインフォルダに社員証サンプルプロジェクトフォルダが保存されています。

　本フォルダをPCのデスクトップなどにコピーし、GRASYS ID DB起動後にファイルタブ＞開くからコピーしたフォルダを開き社員証サンプルを選択してください。
データが空の状態のサンプルが表示されます。
　ホームタブ＞デザイン変更を使用すると、サンプルデータのデザインをGRASYS IDデザインで開き、背景やレイアウトを編集することができます。
　また、上記サンプルフォルダには空のエクセルファイルが保存されており、データを入力してからファイルタブ＞データベース＞インポート＞EXCELデータをインポートするを使用してデータを取り込むことができます。種々機能の確認等にご利用ください

本マニュアルに記載されている会社名、商品名は各社の商標または登録商標です。

(C)PLAZA CREATE CORPORATION 2105
株式会社プラザクリエイトの許可なく複製・改変などを行うことはできません。